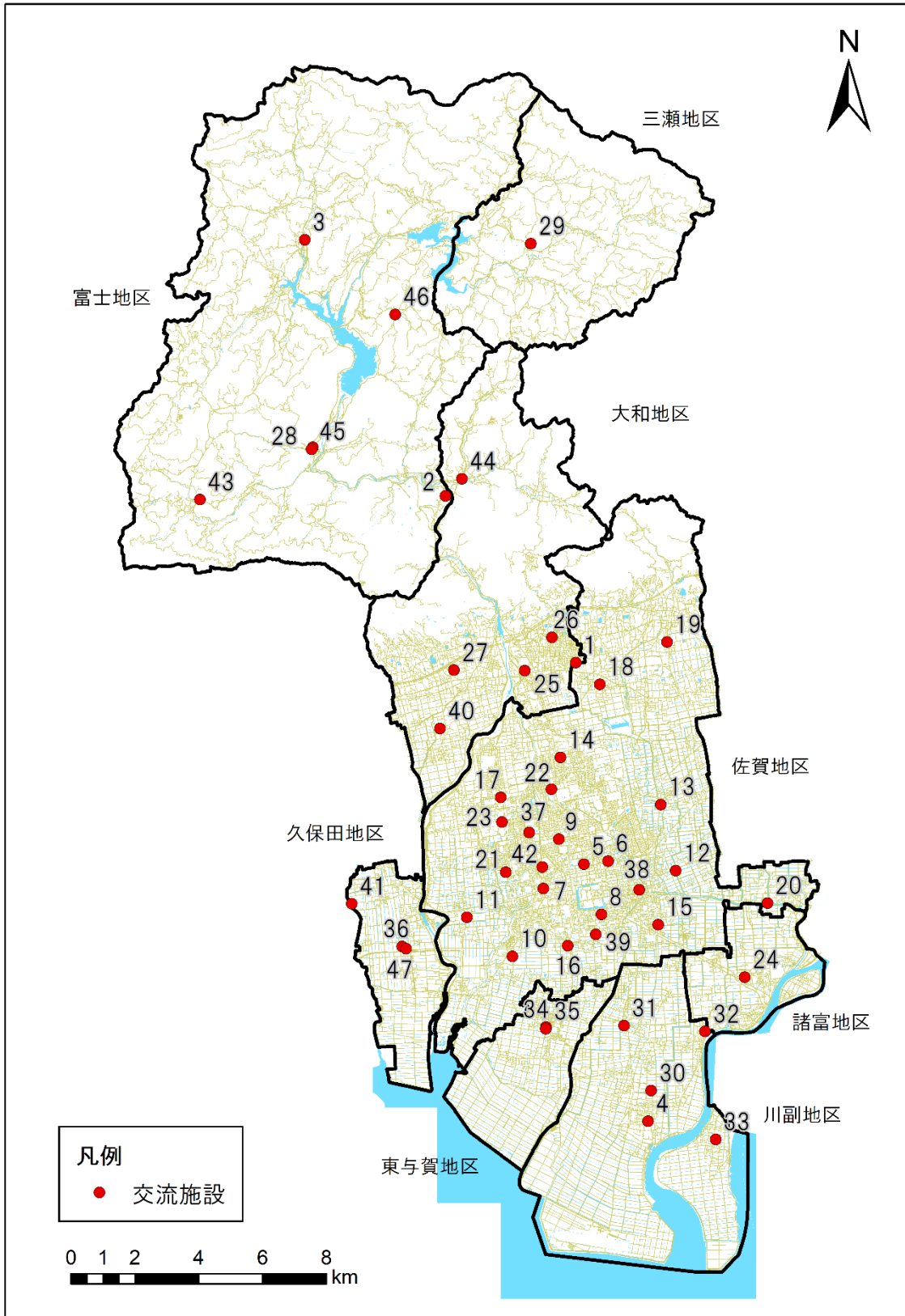


3. 生涯学習施設

3-1. 交流施設

1) 概要



■施設の配置状況（交流施設）

- 交流施設は 47 施設を保有しています。
- 本類型の延床面積は、約 35,843 m²となっており、全施設の 4.5%を占めています。
- 各施設の延床面積は、春日公民館が約 3,227 m²と最も大きく、次いで、佐賀市富士地域振興センター（旧富士小学校）が約 3,213 m²となっています。
- 本類型の施設規模は、1,000 m²以上が 6 施設、1,000 m²未満から 500 m²以上が 28 施設、500 m²未満の施設が 13 施設です。
- 築年数は、延床面積の 38.4%が築 30 年以上となっています。
- 耐震性能の状況は、延床面積の 96.2%が新耐震及び耐震改修済となっています。

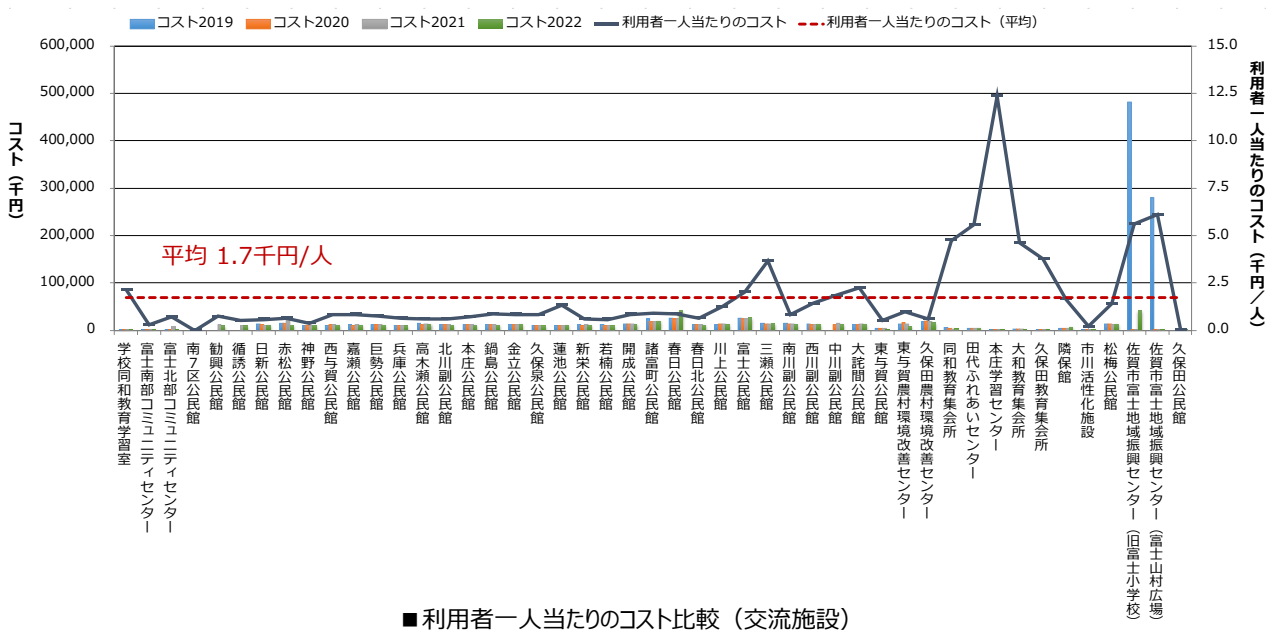
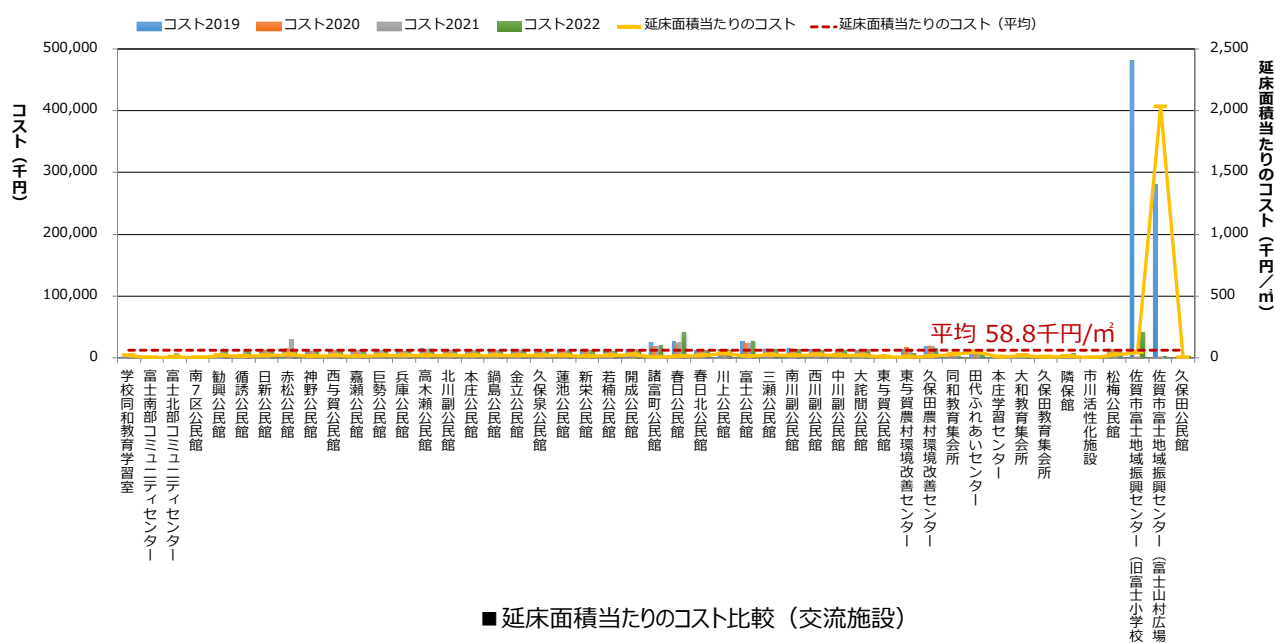
■施設の概要（交流施設）

No.	施設分類		施設名	地区区分	所管課	建築年月	延床面積 (m ²)	構造	耐震診断	耐震改修
	中分類	小分類								
1	地域交流施設	交流施設	学校同和教育学習室	大和地区	学校教育課	1993年10月	19.50	その他	新耐震	新耐震
2	地域交流施設	交流施設	富士南部コミュニティセンター	富士地区	公民館支援課	2000年03月	491.40	その他	新耐震	新耐震
3	地域交流施設	交流施設	富士北部コミュニティセンター	富士地区	公民館支援課	2003年03月	574.48	その他	新耐震	新耐震
4	地域交流施設	交流施設	南7区公民館	川副地区	財産活用課	不明	69.42	W造	未実施	未実施
5	地域交流施設	交流施設	勤興公民館	佐賀地区	公民館支援課	2021年2月	630.47	S造	新耐震	新耐震
6	地域交流施設	交流施設	循誘公民館	佐賀地区	公民館支援課	2021年	793.00	W造	新耐震	新耐震
7	地域交流施設	交流施設	日新公民館	佐賀地区	公民館支援課	1988年	685.94	S造	新耐震	新耐震
8	地域交流施設	交流施設	赤松公民館	佐賀地区	公民館支援課	2002年	787.39	S造	新耐震	新耐震
9	地域交流施設	交流施設	神野公民館	佐賀地区	公民館支援課	2013年	751.26	S造	新耐震	新耐震
10	地域交流施設	交流施設	西与賀公民館	佐賀地区	公民館支援課	2010年9月	639.84	S造	新耐震	新耐震
11	地域交流施設	交流施設	嘉瀬公民館	佐賀地区	公民館支援課	2013年	877.73	W造	新耐震	新耐震
12	地域交流施設	交流施設	巨勢公民館	佐賀地区	公民館支援課	2006年	680.67	W造	新耐震	新耐震
13	地域交流施設	交流施設	兵庫公民館	佐賀地区	公民館支援課	1985年	656.27	S造	新耐震	新耐震
14	地域交流施設	交流施設	高木瀬公民館	佐賀地区	公民館支援課	2000年	682.00	S造	新耐震	新耐震
15	地域交流施設	交流施設	北川副公民館	佐賀地区	公民館支援課	1986年	589.21	W造	新耐震	新耐震
16	地域交流施設	交流施設	本庄公民館	佐賀地区	公民館支援課	2004年	772.40	W造	新耐震	新耐震
17	地域交流施設	交流施設	鍋島公民館	佐賀地区	公民館支援課	1998年	704.50	S造	新耐震	新耐震
18	地域交流施設	交流施設	金立公民館	佐賀地区	公民館支援課	1996年	622.54	S造	新耐震	新耐震
19	地域交流施設	交流施設	久保泉公民館	佐賀地区	公民館支援課	2017年03月	675.56	W造	新耐震	新耐震
20	地域交流施設	交流施設	蓮池公民館	佐賀地区	公民館支援課	1988年	608.72	S造	新耐震	新耐震
21	地域交流施設	交流施設	新栄公民館	佐賀地区	公民館支援課	2014年	779.14	W造	新耐震	新耐震
22	地域交流施設	交流施設	若井公民館	佐賀地区	公民館支援課	2018年9月	701.12	W造	新耐震	新耐震
23	地域交流施設	交流施設	開成公民館	佐賀地区	公民館支援課	1992年	607.39	S造	新耐震	新耐震
24	地域交流施設	交流施設	諸富町公民館	諸富地区	公民館支援課	1985年	2,691.21	RC造	新耐震	新耐震
25	地域交流施設	交流施設	春日公民館	大和地区	公民館支援課	2002年	3,227.23	SRC造	新耐震	新耐震
26	地域交流施設	交流施設	春日北公民館	大和地区	公民館支援課	2013年	731.88	W造	新耐震	新耐震
27	地域交流施設	交流施設	川上公民館	大和地区	公民館支援課	2010年	359.19	W造	新耐震	新耐震
28	地域交流施設	交流施設	富士公民館	富士地区	公民館支援課	2008年	2,216.35	RC造	新耐震	新耐震
29	地域交流施設	交流施設	三瀬公民館	三瀬地区	公民館支援課	2009年	541.58	W造	新耐震	新耐震
30	地域交流施設	交流施設	南川副公民館	川副地区	公民館支援課	2012年	825.34	W造	新耐震	新耐震
31	地域交流施設	交流施設	西川副公民館	川副地区	公民館支援課	1975年	571.60	S造	不明	不明
32	地域交流施設	交流施設	中川副公民館	川副地区	公民館支援課	2020年5月	730.15	W造	新耐震	新耐震
33	地域交流施設	交流施設	大説間公民館	川副地区	公民館支援課	2018年10月	622.26	W造	新耐震	新耐震
34	地域交流施設	交流施設	東与賀公民館	東与賀地区	公民館支援課	1965年	400.97	S造	不明	不明
35	地域交流施設	交流施設	東与賀農村環境改善センター	東与賀地区	公民館支援課	1978年7月	1,436.01	RC造	実施済	実施済
36	地域交流施設	交流施設	久保田農村環境改善センター	久保田地区	公民館支援課	1982年9月	1,439.50	RC造	新耐震	新耐震
37	地域交流施設	交流施設	同和教育集会所	佐賀地区	社会教育課	1985年03月	146.00	RC造	新耐震	新耐震
38	地域交流施設	交流施設	田代ふれあいセンター	佐賀地区	社会教育課	1995年03月	102.83	S造	新耐震	新耐震
39	地域交流施設	交流施設	本庄学習センター	佐賀地区	社会教育課	1961年04月	94.28	W造	未実施	未実施
40	地域交流施設	交流施設	大和教育集会所	大和地区	社会教育課	1977年02月	131.66	W造	未実施	未実施
41	地域交流施設	交流施設	久保田教育集会所	久保田地区	社会教育課	1979年03月	87.00	S造	未実施	未実施
42	地域交流施設	交流施設	隣保館	佐賀地区	人権・同和政策課	1987年03月	340.00	S造	新耐震	新耐震
43	地域交流施設	交流施設	市川活性化施設	富士地区	農村環境課	2006年12月	185.65	W造	新耐震	新耐震
44	地域交流施設	交流施設	松梅公民館	大和地区	公民館支援課	2018年3月	605.02	W造	新耐震	新耐震
45	地域交流施設	交流施設	佐賀市富士地域振興センター（旧富士小学校）	富士地区	地域政策課	1974年06月	3,212.75	RC造	実施済	実施済
46	地域交流施設	交流施設	佐賀市富士地域振興センター（富士山村広場）	富士地区	地域政策課	1987年03月	34.69	W造	新耐震	新耐震
47	地域交流施設	交流施設	久保田公民館	久保田地区	公民館支援課	2020年6月	710.17	W造	新耐震	新耐震
						合計	35,843.27			

2) 現状把握

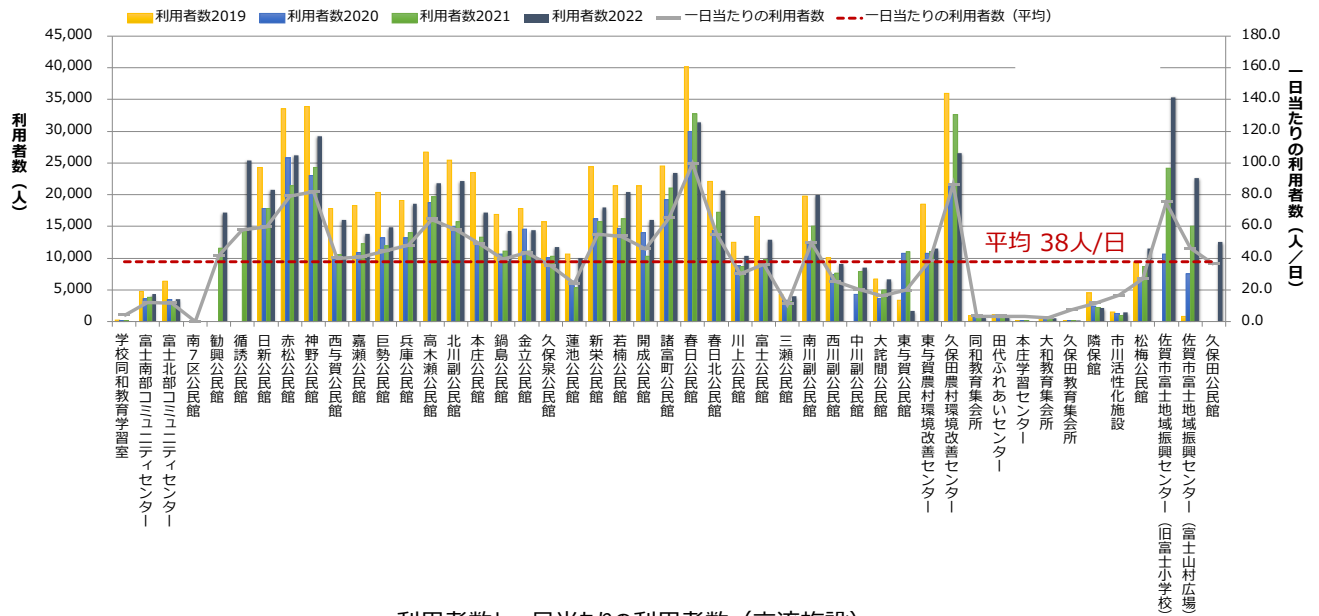
○コスト状況

- 交流施設の4カ年の平均コストは、653,822千円となっており、全施設のコストの合計の4.1%を占めています。
- 各施設のコストは、佐賀市富士地域振興センター（旧富士小学校）が131,299千円と最も大きく、次いで、佐賀市富士地域振興センター（富士山村広場）が70,351千円となっています。
- 延床面積当たりの平均コストは、58.8千円/m²です。各施設でみると、佐賀市富士地域振興センター（富士山村広場）が2,028.0千円/m²と最も大きく、次いで、田代ふれあいセンターが45.8千円/m²となっています。
- 利用者一人当たりの平均コストは、1.7千円/人です。各施設でみると、本庄学習センターが12.4千円/人と最も大きく、次いで、佐賀市富士地域振興センター(富士山村広場)が6.1千円/人となっています。



○利用状況

- 利用者数の推移は、2020年、2021年はコロナウイルスの影響を受け、減少しているものの、2022年には、2019年より約15,000人増加し631,205人が利用しています。
- 各施設の平均利用者数は、春日公民館が33,544人と最も大きく、次いで、久保田農村環境改善センターが29,179人となっています。



3) 分析結果

○施設性能

【施設の躯体に関する性能】

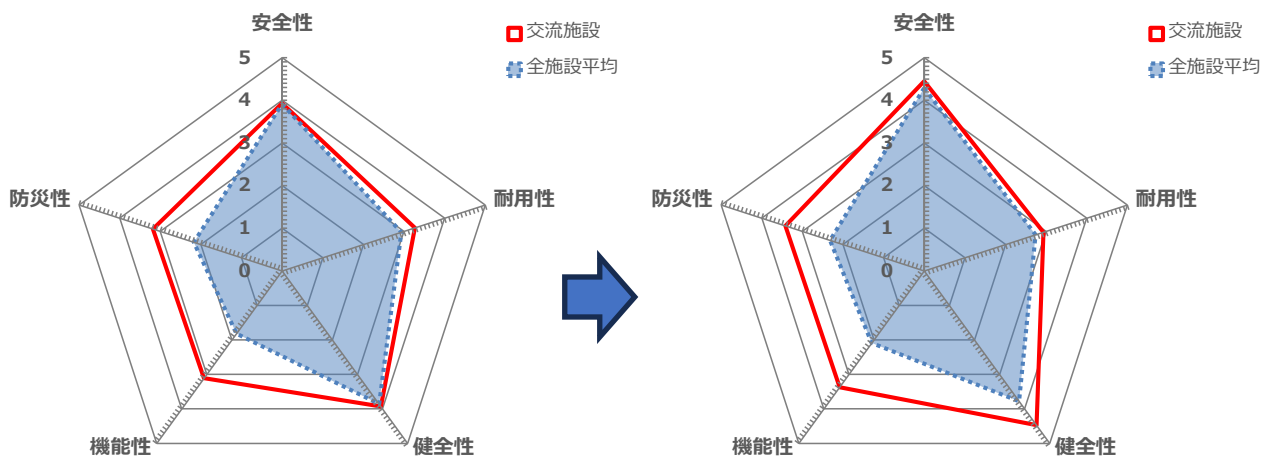
- 安全性：多くの施設で耐震性能が新耐震基準を満足している、もしくは耐震改修が実施済となっています。
(例) 学校同和教育学習室、勸興公民館 など
- 耐用性：多くの施設で耐用年数を経過しています。
(例) 学校同和教育学習室、本庄学習センター など
- 健全性：大規模改修や設備改修を実施している施設があります。
(例) 東与賀農村環境改善センター、隣保館 など

【施設の設備等に関する性能】

- 機能性：バリアフリーや環境配慮、アスベスト対策を実施している施設があります。
(例) 西与賀公民館、春日北公民館 など
- 防災性：地域防災計画の指定や避難拠点設備の設置をしている施設があります。
(例) 大詫間公民館、松梅公民館 など

【性能の変化】

- 勸興公民館や循誘公民館の建替え等により、類型全体として安全性、健全性、機能性、防災性が向上しています。一方で、耐用年数の比較的短い木造建築が多いことにより、類型全体として耐用性が低下しています。



■レーダーチャート分析（交流施設）
【平成 29 年度分析】

■レーダーチャート分析（交流施設）
【令和 6 年度分析】

○施設評価

【評価指標】

- 利用・運営状況は、延べ床面積当たりのコストと利用者数にて評価しています。
※南7区公民館の利用者数は不明となっているため、利用・運営状況の評価点数が低くなっています。

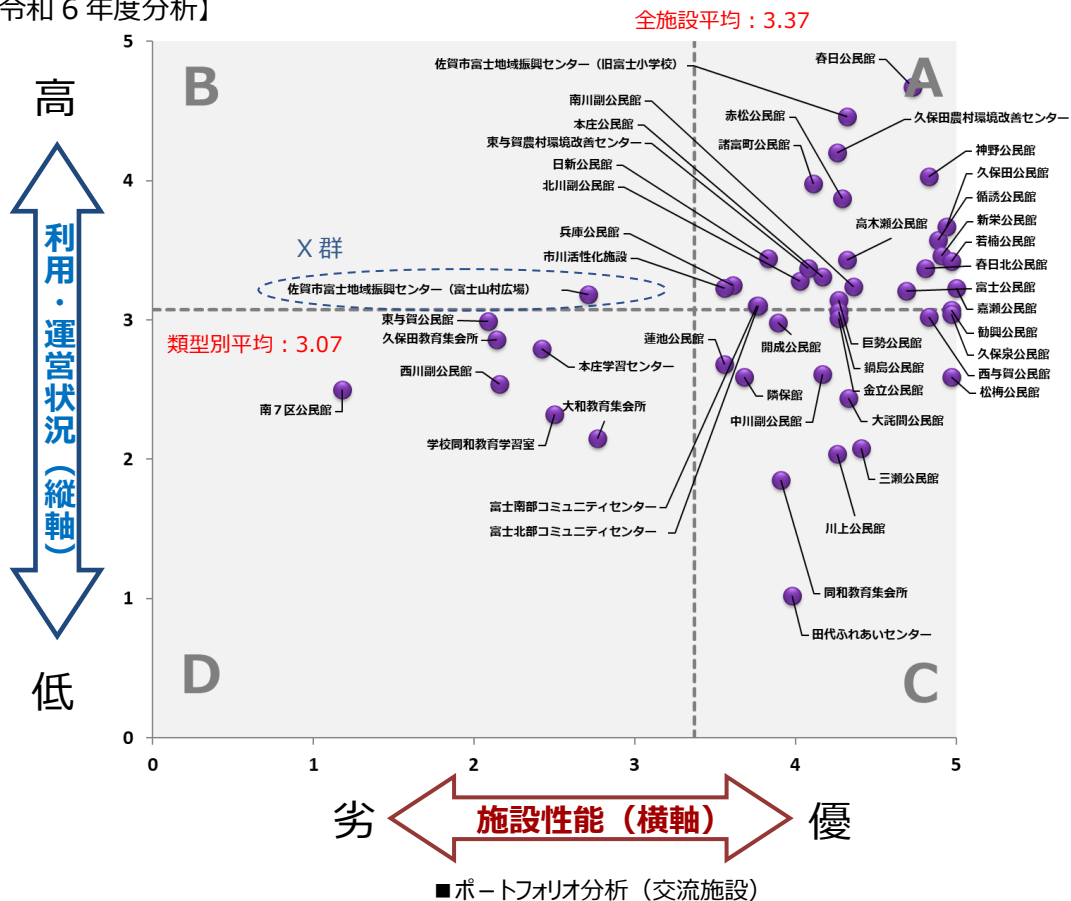
【評価区分の状況】

- 施設数はAが24施設、Bが1施設、Cが15施設、Dが7施設です。
- 面積割合はAが74%、Bが0.1%、Cが22%、Dが4%です。

【各施設の評価結果】

- A：施設性能が優れ、利用・運営状況も高い施設
(例) 春日公民館、佐賀市富士地域振興センター（旧富士小学校） など
 - B：施設性能が劣っているが、利用・運営状況は高い施設
(例) 佐賀市富士地域振興センター（富士山村広場）
 - C：施設性能が優れているが、利用・運営状況は低い施設
(例) 田代ふれあいセンター、同和教育集会所、川上公民館 など
 - D：施設性能が劣り、利用・運営状況も低い施設
(例) 大和教育集会所、学校同和教育学習室、西川副公民館 など
- ※南7区公民館は、利用者不明となっています。
- ※教育集会所、田代ふれあいセンターについては公民館等と性質が異なり、利用者数の増加を目的とした施設ではないため比較的、利用・運営状況の評価が低くなっています。

【令和6年度分析】



○本類型の考察

交流施設は、おおむね施設性能は優れているものの、利用・運営状況にばらつきがある類型となっています。施設性能の維持やサービス提供に大きなコストを要しています。

また、比較的新しい施設も多いため、今後老朽化に伴い、さらに維持費が増加していくことが予想されます。

今後検討すべき項目

- 利用・運営状況の改善に向けた取組みを検討する際には、利用の状況やコストの状況を把握していく必要があり、利用者数やサービス内容に対する施設規模やコストのバランスを見直し、それぞれの適正化が必要となります。
- 施設に余裕スペースがある場合は、施設性能が低い施設の機能を移転させ、複合化を図ることにより、住民サービスを充実させるなど、利用促進に向けた取組みを検討していく必要があります。

【特記事項】

(X群)

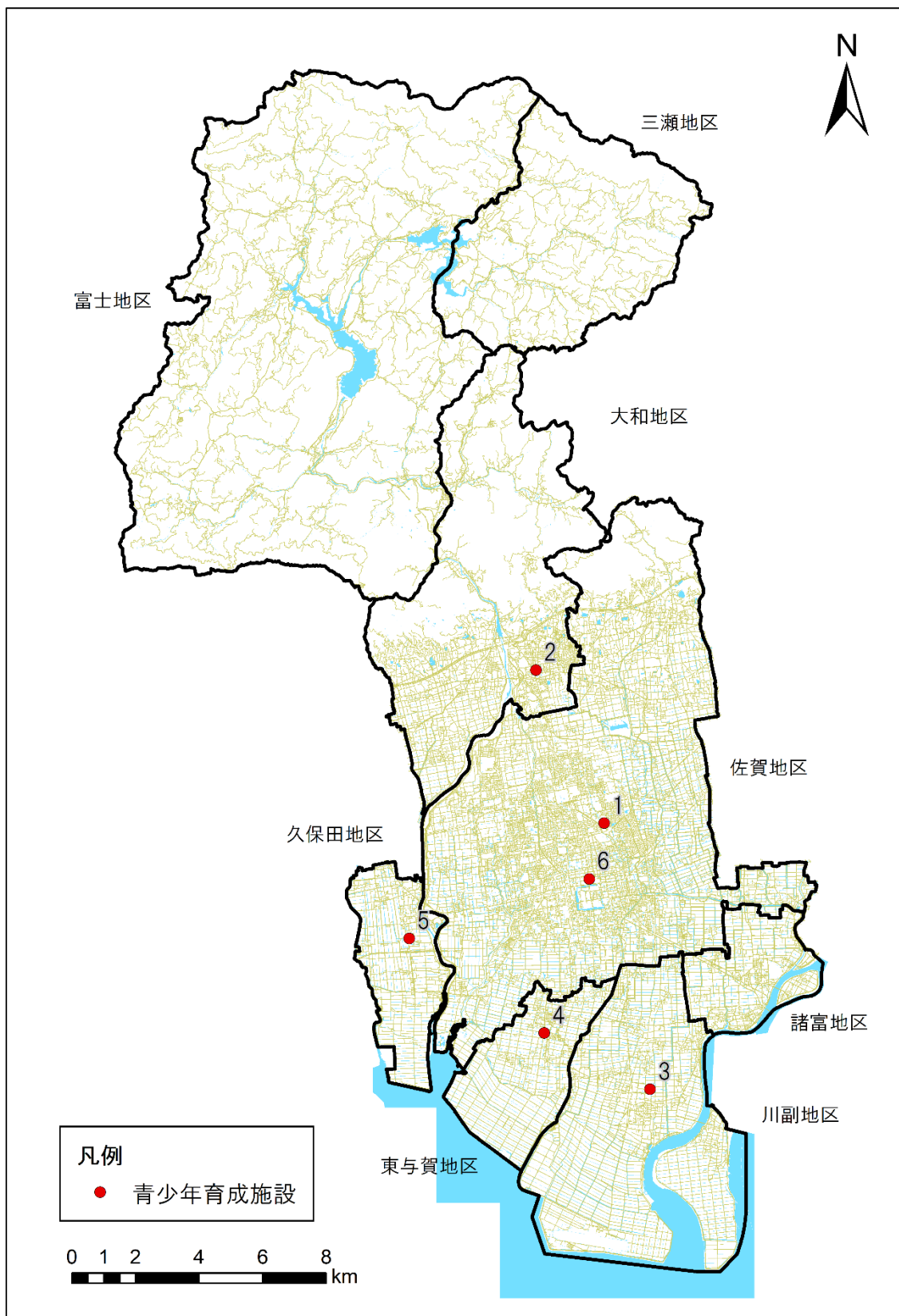
- 佐賀市富土地域振興センター（富士山村広場）は、施設性能が劣っているものの、利用・運営状況が高い傾向にあります。
- 施設性能の低下に伴い、建物に各種不具合が生じることが予想されます。
- 施設の更新を検討する際には、利用・運営状況のソフト面での検討が必要となります。

(例)

- ・ 利用の状況やコストの状況を把握し、利用者数やサービス内容に対する施設規模やコストのバランスの見直しを行う など
- ・ 施設規模の見直しや、ランニングコストを考慮した設備への転換
施設名：佐賀市富土地域振興センター（富士山村広場） など

3 - 2. 青少年育成施設

1) 概要



■施設の配置状況（青少年育成施設）

- 青少年育成施設は、6 施設を保有しています。
- 本類型の延床面積は、約 4,575 ㎡となっており、全施設の 0.6%を占めています。
- 各施設の延床面積は、佐賀市青少年センターが約 2,297 ㎡と最も大きく、次いで、中央児童センターが約 790 ㎡となっています。その他の施設はいずれも 500 ㎡未満となっています。
- 築年数は、延床面積の 23.5%が築 30 年以上経過しています。
- 耐震性能の状況は、全ての施設が新耐震となっています。

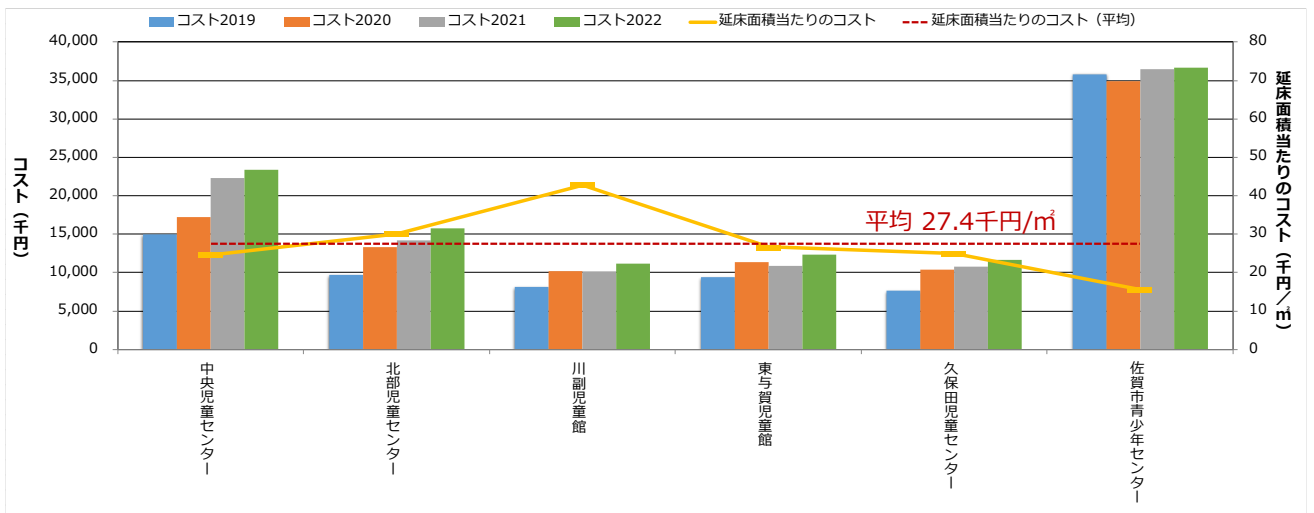
■施設の概要（青少年育成施設）

No.	施設分類		施設名	地区区分	所管課	建築年月	延床面積 (㎡)	構造	耐震診断	耐震改修
	中分類	小分類								
1	青少年育成施設	青少年育成施設	中央児童センター	佐賀地区	子育て総務課	1995年06月	790.25	W造	新耐震	新耐震
2	青少年育成施設	青少年育成施設	北部児童センター	大和地区	子育て総務課	1994年02月	439.47	W造	新耐震	新耐震
3	青少年育成施設	青少年育成施設	川副児童館	川副地区	子育て総務課	1985年03月	231.50	RC造	新耐震	新耐震
4	青少年育成施設	青少年育成施設	東与賀児童館	東与賀地区	子育て総務課	1999年04月	411.14	S造	新耐震	新耐震
5	青少年育成施設	青少年育成施設	久保田児童センター	久保田地区	子育て総務課	1993年03月	406.06	W造	新耐震	新耐震
6	青少年育成施設	青少年育成施設	佐賀市青少年センター	佐賀地区	社会教育課	1998年5月	2,296.53	S造	新耐震	新耐震
合計							4,574.95			

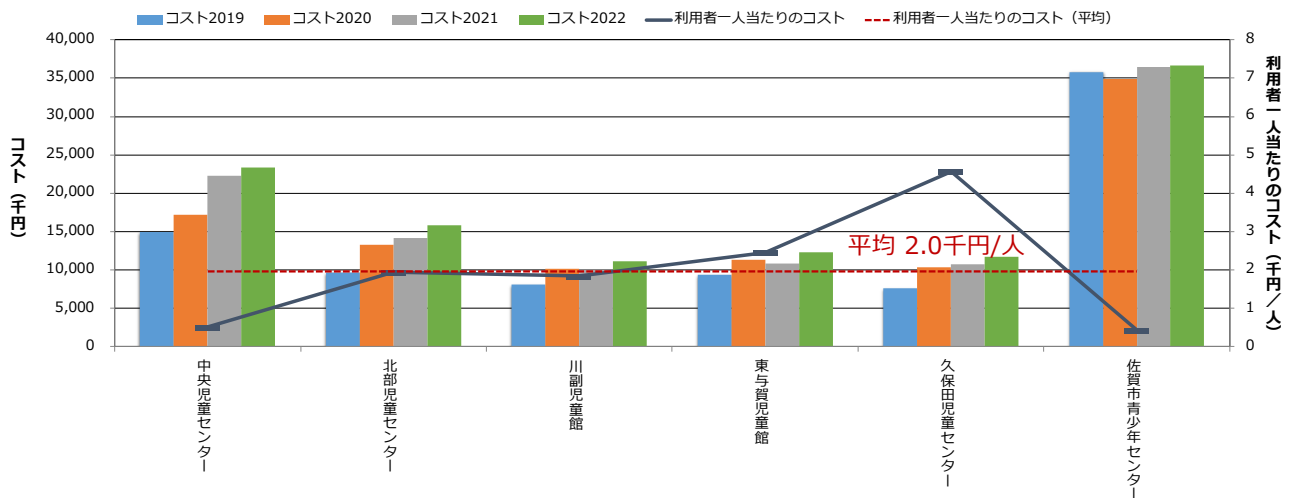
2) 現状把握

○コスト状況

- 青少年育成施設の 4 年の平均コストは、99, 612 千円となっており、全施設の平均コストの合計の 0.6%を占めています。
- 各施設のコストは、佐賀市青少年センターが 35,951 千円と最も大きく、次いで、中央児童センターが 19,469 千円となっています。
- 延床面積当たりの平均コストは、27.4 千円/㎡です。各施設でみると、川副児童館が 42.8 千円/㎡と最も大きく、次いで、北部児童センターが 30.1 千円/㎡となっています。
- 利用者一人当たりの平均コストは、2.0 千円です。各施設でみると、久保田児童センターが 4.6 千円/人と最も大きく、次いで、東与賀児童館が 2.5 千円/人となっています。



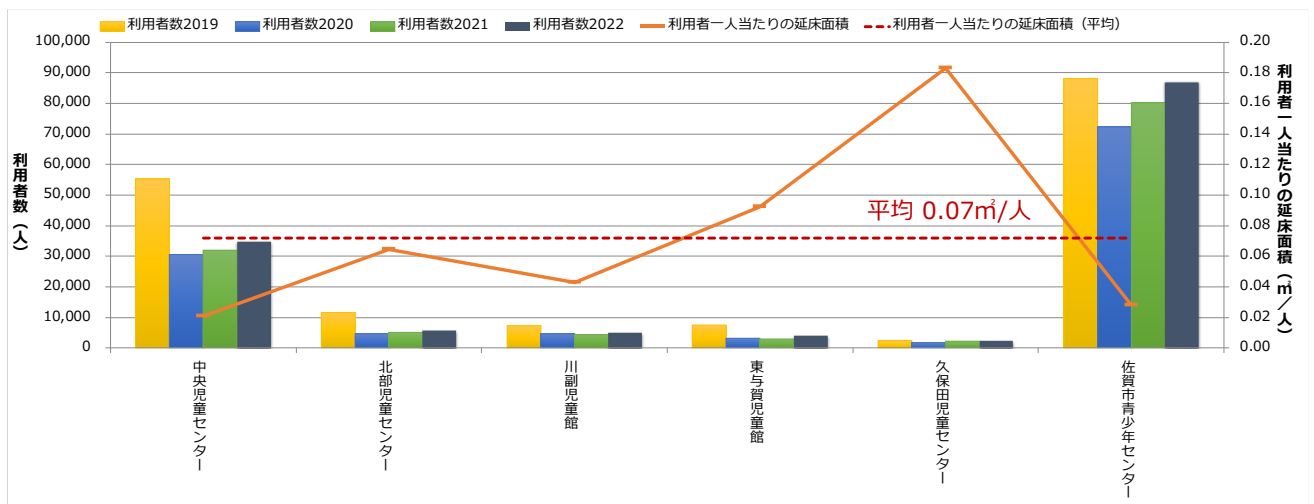
■延床面積当たりのコスト比較（青少年育成施設）



■利用者一人当たりのコスト比較 (青少年育成施設)

○利用状況

- 青少年育成施設の利用者一人当たりの平均延床面積は、0.07 m²/人となっています。東与賀児童館、久保田児童センターが平均を上回っています。
- 利用者数の推移は、4カ年で172,354人から138,782人と減少傾向にあります。2020年はコロナウイルスの影響を受け、利用者数が減少したものの、2021年、2022年は増加傾向にあります。
- 各施設の平均利用者数は、佐賀市青少年センターが81,840人と最も多く、次いで、中央児童センターが38,188人となっています。その他の施設の平均利用者数は、7,000人未満となっています。



■利用者数と一人当たりの延床面積 (青少年育成施設)

3) 分析結果

○施設性能

【施設の躯体に関する性能】

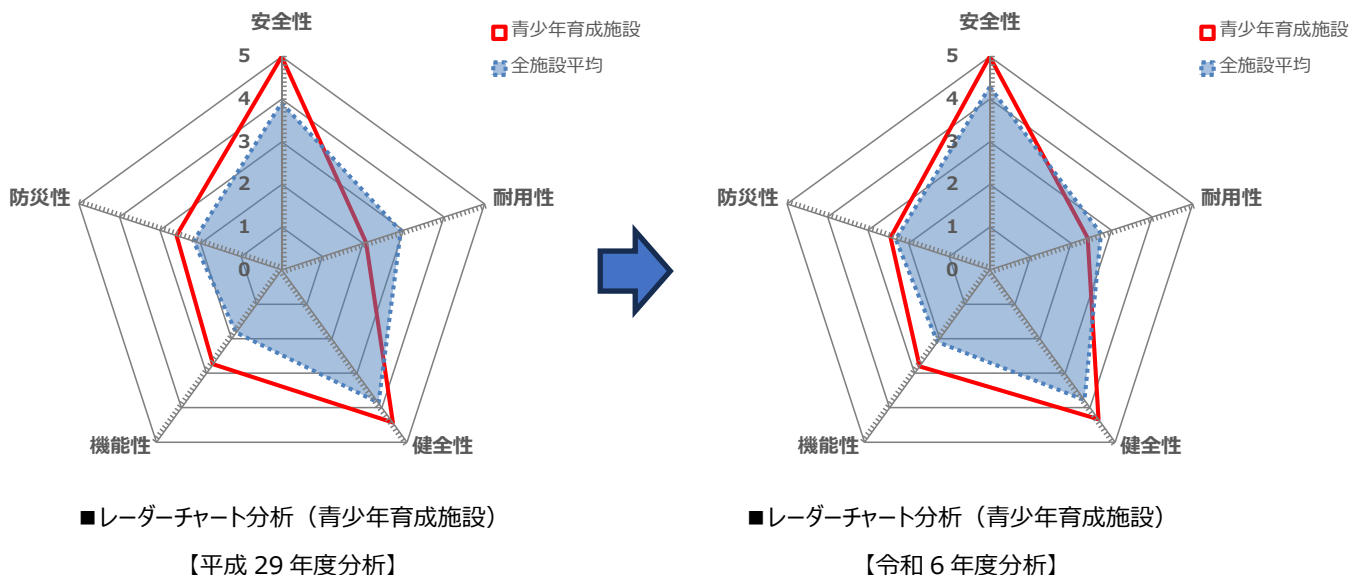
- 安全性：いずれの施設も耐震性能が新耐震基準を満足しています。
(例) 中央児童センター、北部児童センター など
- 耐用性：耐用年数を経過している施設があります。
(例) 中央児童センター、北部児童センター など
- 健全性：多くの施設が築 30 年を経過しています。
(例) 北部児童センター、川副児童館 など

【施設の設備等に関する性能】

- 機能性：バリアフリーや環境配慮、アスベスト対策を実施している施設があります。
(例) 中央児童センター、佐賀市青少年センター など
- 防災性：地域防災計画の指定や避難拠点設備の設置をしている施設があります。
(例) 川副児童館 など

【性能の変化】

- 耐用年数を迎えた施設の除外により、類型全体として耐用性の向上が見られます。一方で、3 次避難所に指定されていたため除外の影響等で防災性の低下が見られます。



○施設評価

【評価指標】

- 利用・運営状況は、延べ床面積当たりのコストと利用者数にて評価しています。

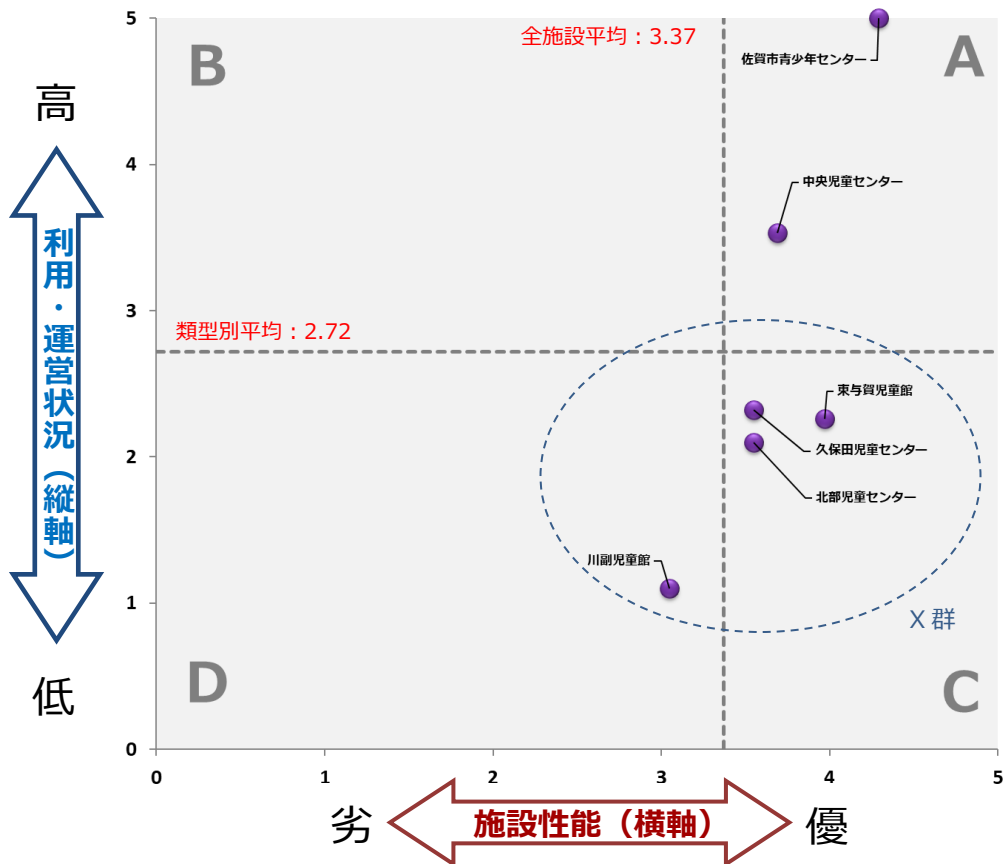
【評価区分の状況】

- 施設数はAが2施設、Cが3施設、Dが1施設です。
- 面積割合はAが67%、Cが27%、Dが5%です。

【各施設の評価結果】

- A：施設性能が優れ、利用・運営状況も高い施設
(例) 中央児童センター、佐賀市青少年センター
- B：施設性能が劣っているが、利用・運営状況は高い施設
(例) 該当なし
- C：施設性能が優れているが、利用・運営状況は低い施設
(例) 久保田児童センター、東与賀児童館、北部児童センター
- D：施設性能が劣り、利用・運営状況も低い施設
(例) 川副児童館

【令和6年度分析】



■ポートフォリオ分析 (青少年育成施設)

○本類型の考察

青少年育成施設は、一部施設を除き施設性能が優れているものの、利用・運営状況が低い傾向にある類型となっています。施設性能の維持やサービス提供に大きなコストを要しています。

また、比較的新しい施設も多いため、今後老朽化に伴い、さらに維持費が増加していくことが予想されます。

今後検討すべき項目

- 利用・運営状況の改善に向けた取組みを検討する際には、利用の状況やコストの状況を把握していく必要があり、利用者数やサービス内容に対する施設規模やコストのバランスを見直し、それぞれの適正化が必要となります。
- 施設に余裕スペースがある場合は、施設性能が低い施設の機能を移転させ、複合化を図ることにより、住民サービスを充実させるなど、利用促進に向けた取組みを検討していく必要があります。

【特記事項】

(X群)

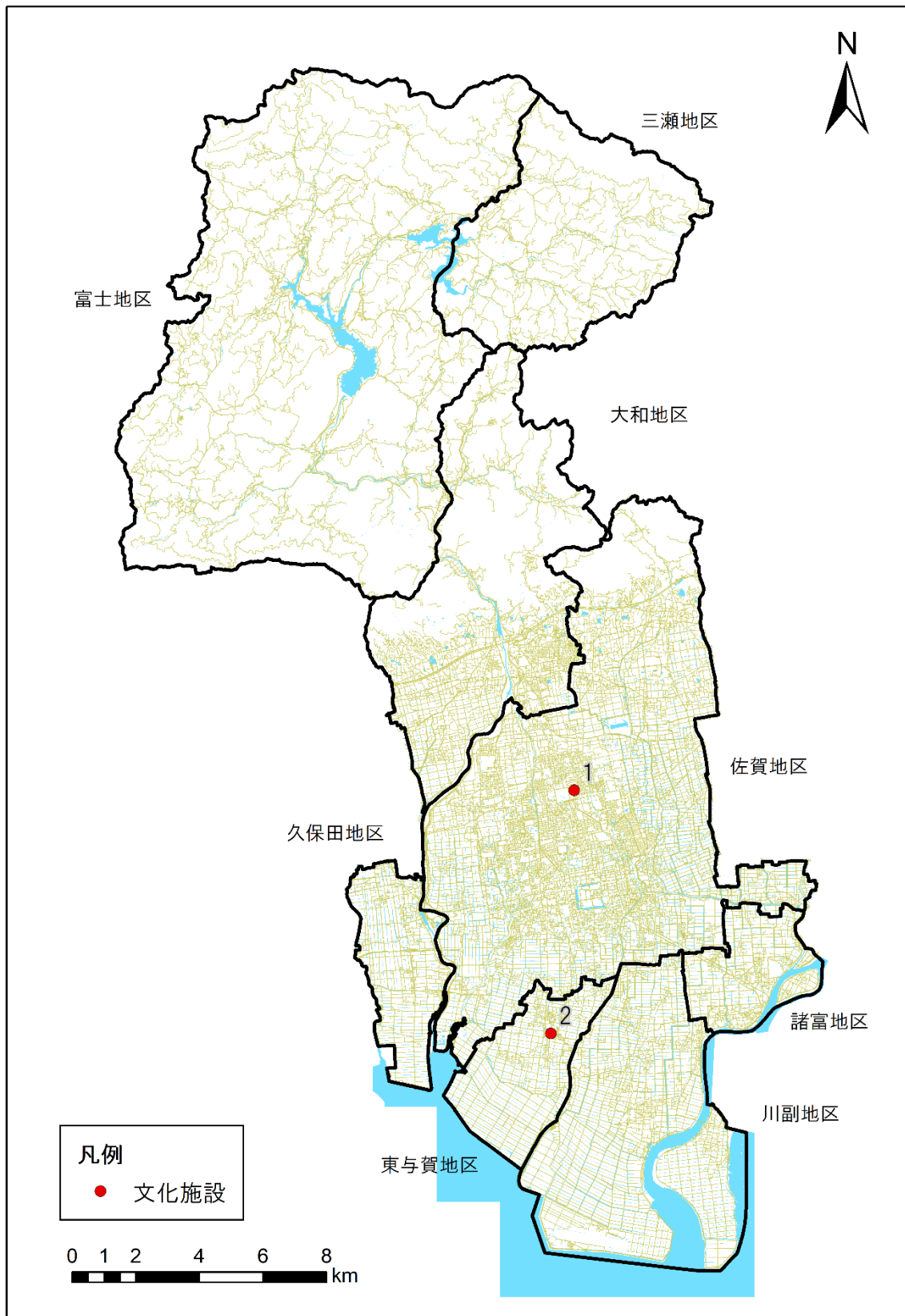
- 東与賀児童館、久保田児童センターなどは、施設性能が優れているにもかかわらず、利用・運営状況が低い傾向にあります。今後、施設の老朽化が進み、建物に各種不具合が生じることが予想されます。
- 現状の施設を適切な管理により維持するとともに、利用・運営状況の改善に向けたソフト面での取組みを検討していく必要があります。

(例)

- ・ 市として施設を保有し続ける必要があるか、また市がサービスを提供する必要があるかを検討
施設名：東与賀児童館、久保田児童センター、北部児童センター、川副児童館

3-3. 文化施設

1) 概要



■施設の配置状況（文化施設）

- 文化施設は、2 施設を保有しています。
- 本類型の延床面積は、約 21,945 m²となっており、全施設の 2.7%を占めています。
- 各施設の延床面積は、文化会館が約 18,464 m²と最も大きく、次いで、東与賀文化ホールが約 3,481 m²となっています。
- 築年数は、延床面積の 84.1%が築 30 年以上経過しています。
- 耐震性能の状況は、全ての施設が新耐震となっています。

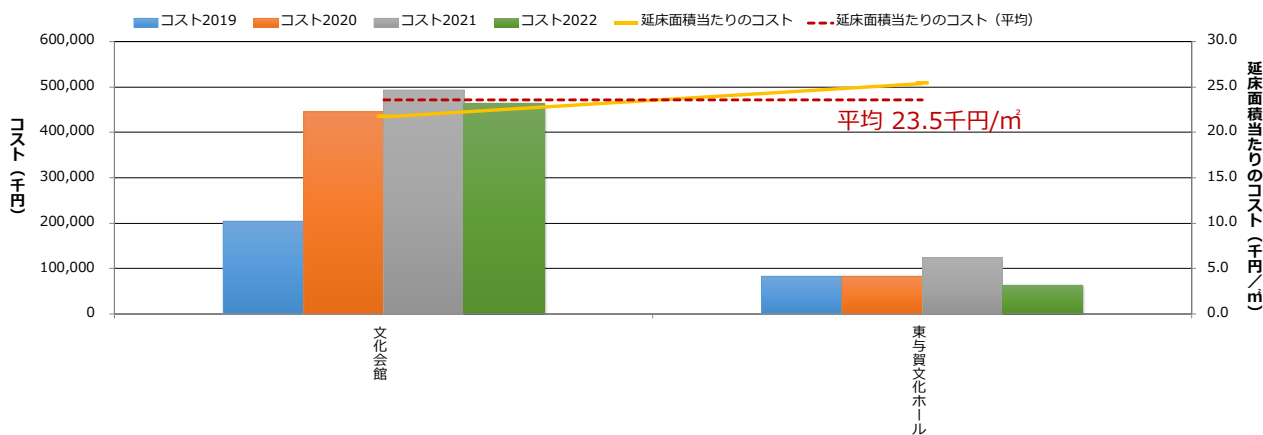
■施設の概要（文化施設）

No.	施設分類		施設名	地区区分	所管課	建築年月	延床面積 (m ²)	構造	耐震診断	耐震改修
	中分類	小分類								
1	文化・集会施設	文化施設	文化会館	佐賀地区	歴史・文化課	1989年07月	18,464.13	SRC造	新耐震	新耐震
2	文化・集会施設	文化施設	東与賀文化ホール	東与賀地区	歴史・文化課	1996年03月	3,481.17	RC造	新耐震	新耐震
合計							21,945.30			

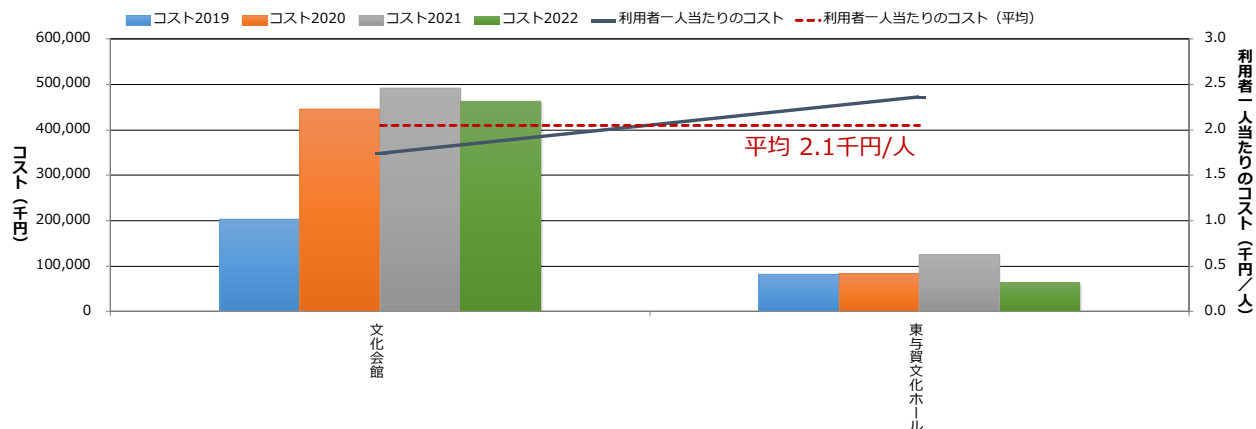
2) 現状把握

○コスト状況

- 文化施設の 4 年の平均コストは、489,374 千円となっており、全施設のコストの合計の 3.1%を占めています。
- 各施設のコストは、文化会館が 401,071 千円と最も大きく、次いで、東与賀文化ホールが 88,304 千円となっています。
- 文化会館は、指定管理費に毎年 145,000 千円から 180,000 千円程度のコストを要しています。
- 延床面積当たりの平均コストは、23.5 千円/m²です。各施設で見ると、東与賀文化ホールが 25.4 千円/m²と最も大きく、次いで、文化会館が 21.7 千円/m²となっています。
- 利用者一人当たりの平均コストは、2.1 千円/人です。各施設で見ると、東与賀文化ホールが 2.4 千円/人と最も大きく、次いで、文化会館が 1.7 千円/人となっています。



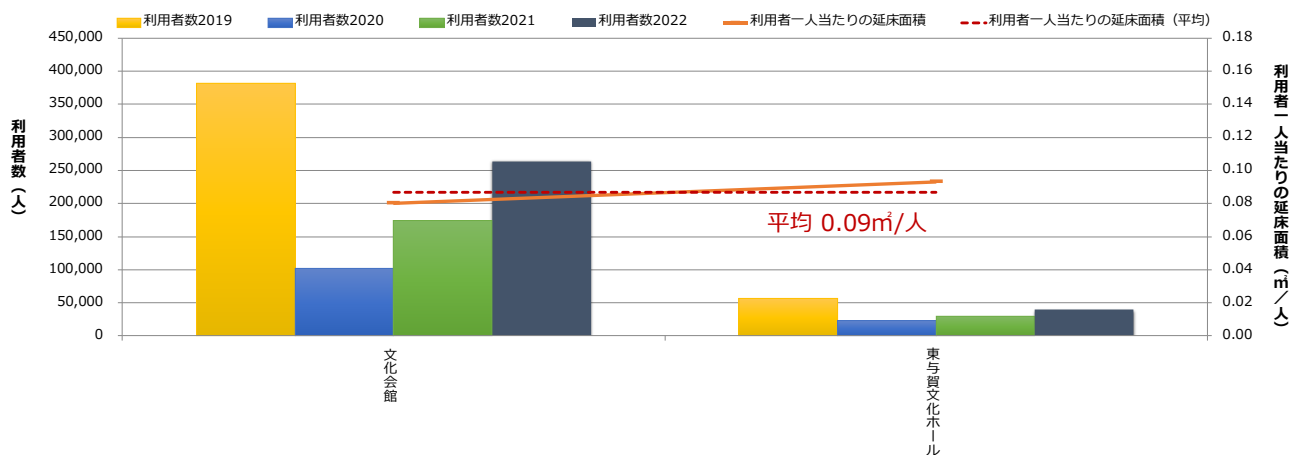
■延床面積当たりのコスト比較（文化施設）



■利用者一人当たりのコスト比較 (文化施設)

○利用状況

- 文化施設の利用者一人当たりの平均延床面積は、0.09 m²/人となっています。東与賀文化ホールが平均を上回っています。
- 文化会館の利用者数の推移は、4カ年で381,636人から263,713人と減少傾向にあります。東与賀文化ホールの利用者数の推移は、4カ年で56,468人から39,601人と減少傾向にあります。どちらの施設も、2020年はコロナウイルスの影響を受け、利用者数が減少したものの、2021年、2022年は増加傾向にあります。
- 文化会館の4カ年の平均利用者数は、230,205人です。



■利用者数と一人当たりの延床面積 (文化施設)

3) 分析結果

○施設性能

【施設の躯体に関する性能】

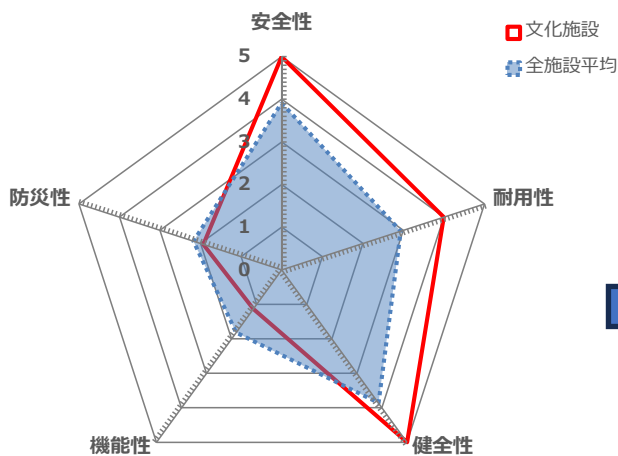
- 安全性：いずれの施設も耐震性能が新耐震基準を満足しています。
(例) 文化会館、東与賀文化ホール
- 耐用性：老朽化が進行しているものの、耐用年数は経過していません。
(例) 文化会館、東与賀文化ホール
- 健全性：築 30 年を経過した施設があります。
(例) 文化会館

【施設の設備等に関する性能】

- 機能性：バリアフリーや環境配慮、アスベスト対策を実施している施設があります。
(例) 文化会館
- 防災性：3 次避難所に指定されていますが避難拠点設備の設置をしていない施設があります。
(例) 文化会館、東与賀文化ホール

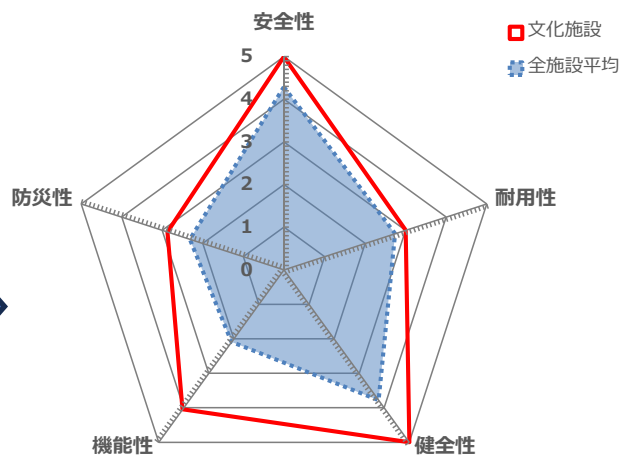
【性能の変化】

- 東与賀文化ホールが耐用年数の 1/2 を迎えたことにより、類型全体として耐用性が低下しています。一方で、整備状況の把握が進んだことにより、機能性、防災性が向上しています。



■レーダーチャート分析（文化施設）

【平成 29 年度分析】



■レーダーチャート分析（文化施設）

【令和 6 年度分析】

○施設評価

【評価指標】

- 利用・運営状況は、延べ床面積当たりのコストと利用者数にて評価しています。

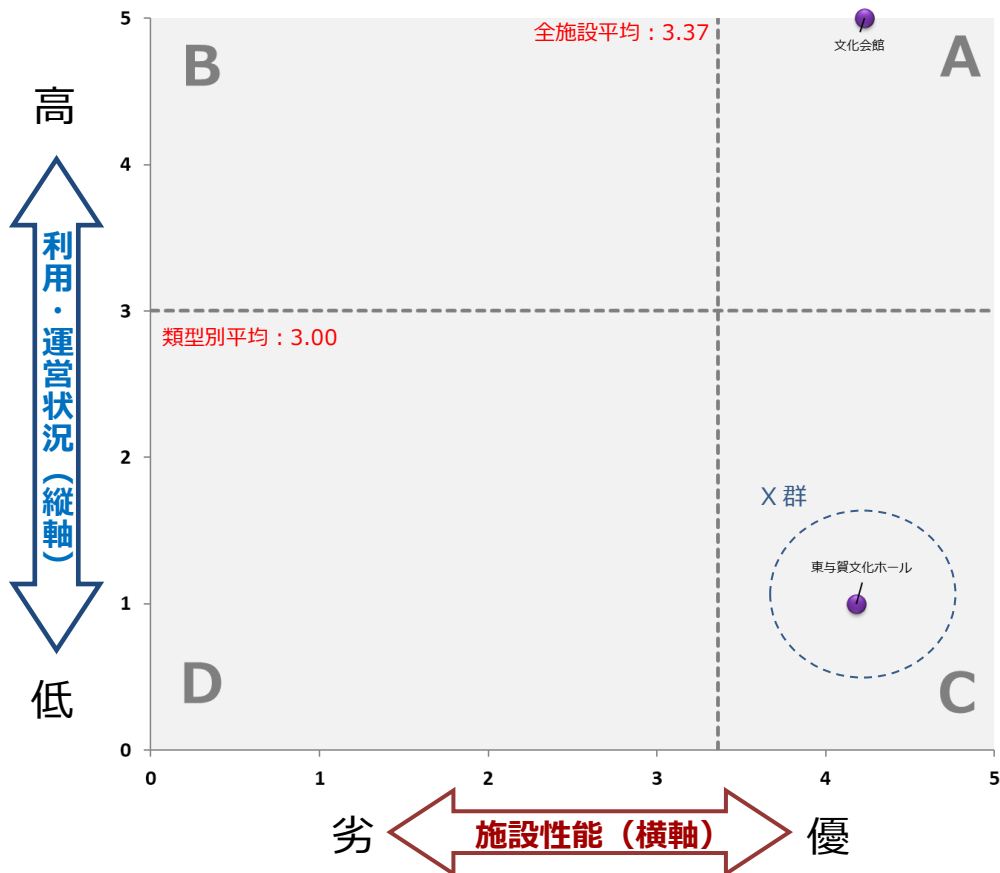
【評価区分の状況】

- 施設数は A が 1 施設、C が 1 施設です。
- 面積割合は A が 84%、C が 16%です。

【各施設の評価結果】

- A : 施設性能が優れ、利用・運営状況も高い施設
(例) 文化会館
- B : 施設性能が劣っているが、利用・運営状況は高い施設
(例) 該当なし
- C : 施設性能が優れているが、利用・運営状況は低い施設
(例) 東与賀文化ホール
- D : 施設性能が劣り、利用・運営状況も低い施設
(例) 該当なし

【令和 6 年度分析】



■ポートフォリオ分析 (文化施設)

○本類型の考察

文化施設は、施設性能は優れているものの、利用・運営状況は一部施設が低い傾向にある類型となっています。施設性能の維持やサービス提供に大きなコストを要しています。

今後老朽化に伴い、さらに維持費が増加していくことが予想されます。

今後検討すべき項目

- 利用・運営状況の改善に向けた取組みを検討する際には、利用の状況やコストの状況を把握していく必要があり、利用者数やサービス内容に対する施設規模やコストのバランスを見直し、それぞれの適正化が必要となります。
- 施設に余裕スペースがある場合は、施設性能が低い施設の機能を移転させ、複合化を図ることにより、住民サービスを充実させるなど、利用促進に向けた取組みを検討していく必要があります。

【特記事項】

(X群)

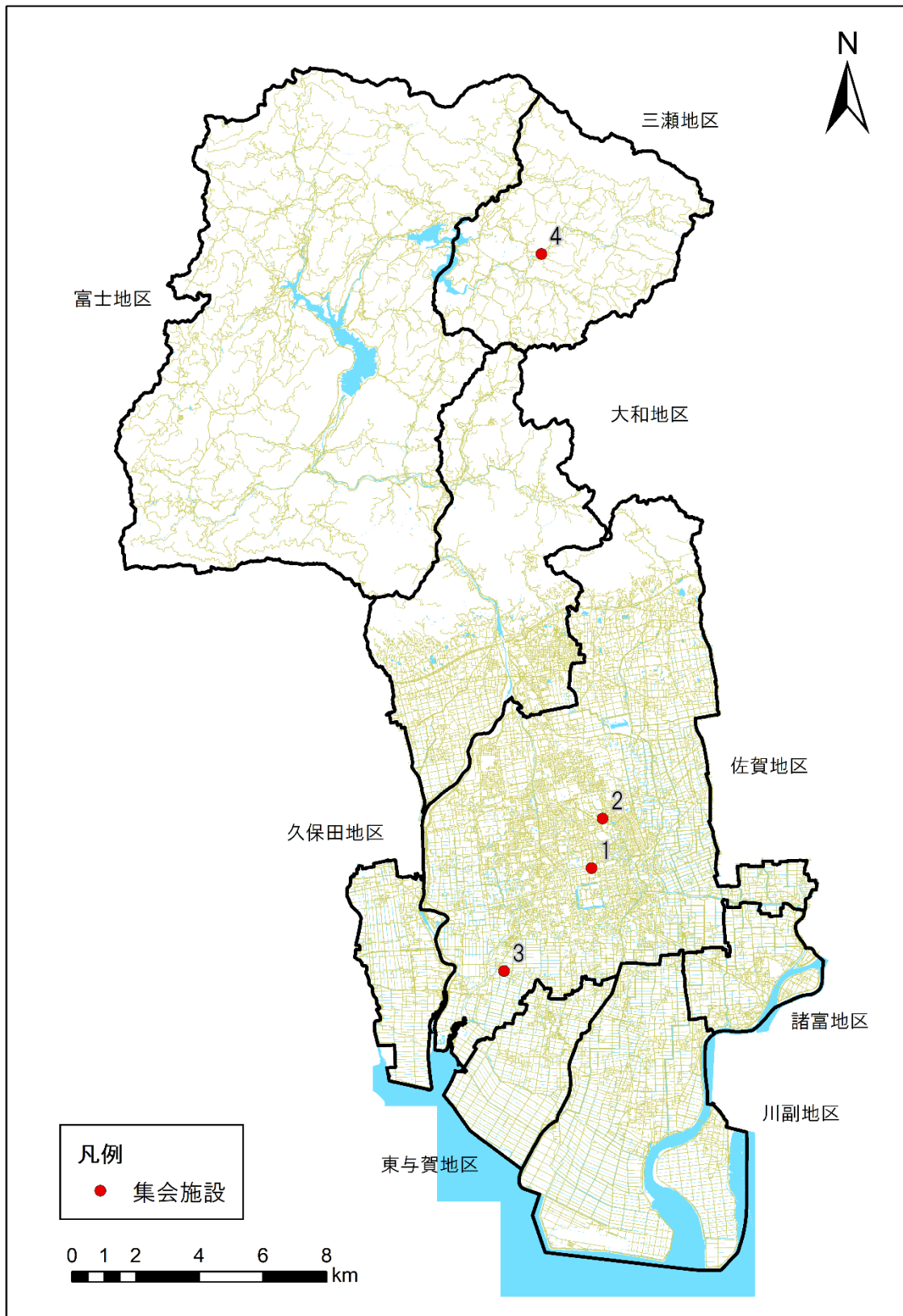
- 東与賀文化ホールは、施設性能が優れているにもかかわらず、利用・運営状況が非常に低い傾向にあります。今後、施設の老朽化が進み、建物に各種不具合が生じることが予想されます。
- 現状の施設を適切な管理により維持するとともに、利用・運営状況の改善に向けたソフト面での取組みを検討していく必要があります。

(例)

- ・ 市として施設を保有し続ける必要があるか、また市がサービスを提供する必要があるかを検討
施設名：東与賀文化ホール

3 - 4. 集会施設

1) 概要



■施設の配置状況 (集会施設)

- 集会施設は 4 施設を保有しています。
- 本類型の延床面積は、約 4,468 m²となっており、全施設の 0.6%を占めています。
- 各施設の延床面積は、佐賀勤労者総合福祉センターが約 2,204 m²と最も大きく、次いで、佐賀市市民活動プラザが約 1,374 m²となっています。
- 築年数は、延床面積の 67.9%が築 30 年以上経過しています。
- 耐震性能の状況は、全ての施設が新耐震となっています。

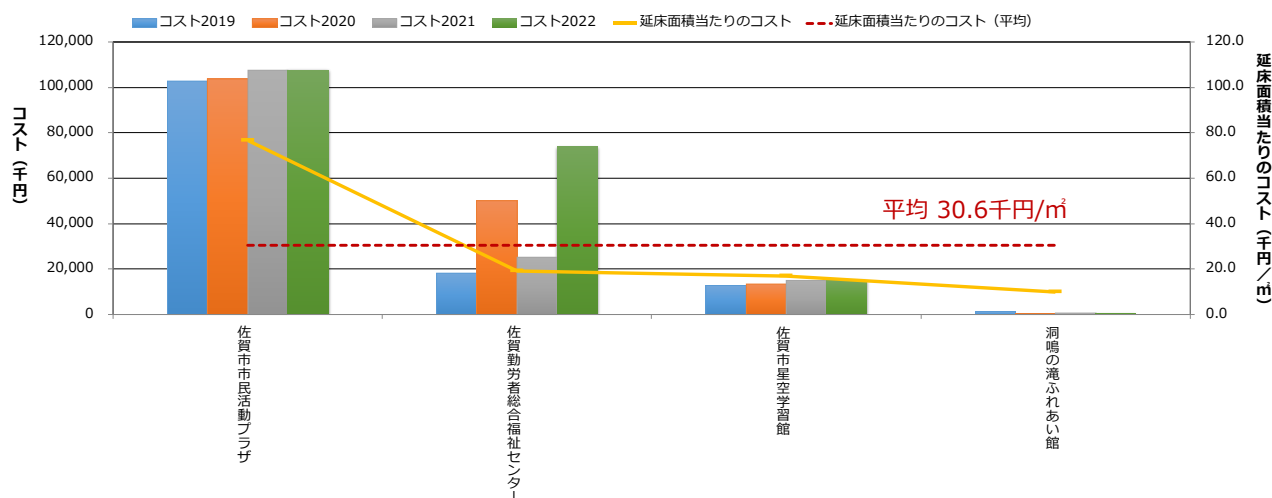
■施設の概要（集会施設）

No.	施設分類		施設名	地区区分	所管課	建築年月	延床面積 (m ²)	構造	耐震診断	耐震改修
	中分類	小分類								
1	文化・集会施設	集会施設	佐賀市市民活動プラザ	佐賀地区	協働推進課	2014年03月	1,374.14	S造	新耐震	新耐震
2	文化・集会施設	集会施設	佐賀勤労者総合福祉センター	佐賀地区	健康づくり課	1990年12月	2,203.60	RC造	新耐震	新耐震
3	文化・集会施設	集会施設	佐賀市星空学習館	佐賀地区	社会教育課	1992年03月	828.82	SRC造	新耐震	新耐震
4	文化・集会施設	集会施設	洞鳴の滝ふれあい館	三瀬地区	環境政策課	2018年07月	61.25	W造	新耐震	新耐震
合計							4,467.81			

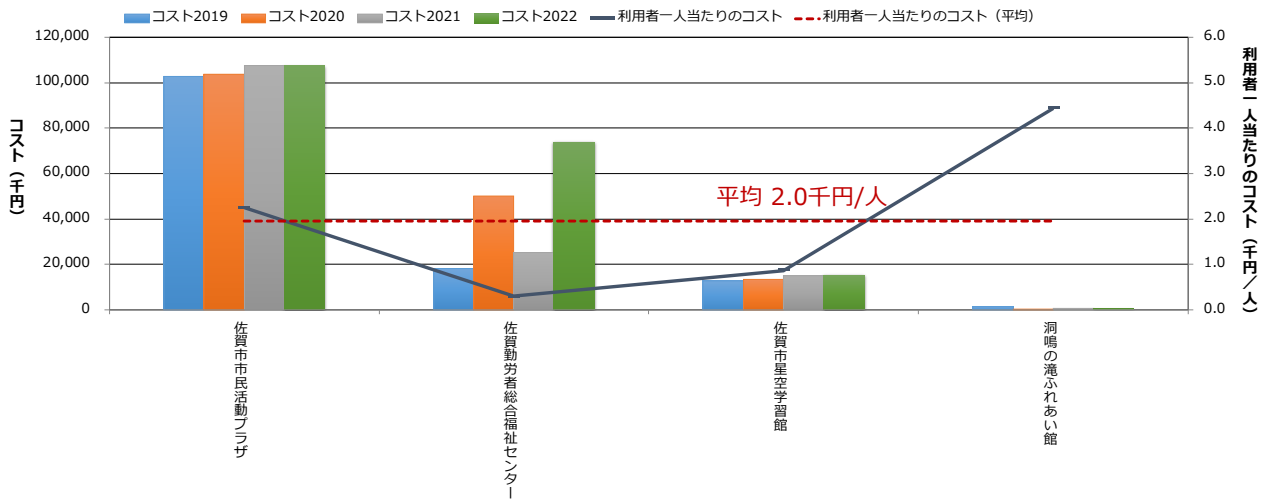
2) 現状把握

○コスト状況

- 集会施設の 4 年の平均コストは、161,784 千円となっており、全施設の平均コストの合計の 1.0%を占めています。
- 各施設のコストは、佐賀市市民活動プラザが 105,325 千円と最も大きく、次いで、佐賀勤労者総合福祉センターが 41,808 千円となっています。
- 佐賀市市民活動プラザ、佐賀勤労者総合福祉センターは、指定管理費として毎年 15,000 千円から 21,000 千円程度のコストを要しています。
- 延床面積当たりの平均コストは、30.6 千円/m²です。各施設でみると、佐賀市市民活動プラザが 76.6 千円/m²と最も大きく、次いで、佐賀勤労者総合福祉センターが 19.0 千円/m²となっています。
- 利用者一人当たりの平均コストは、2.0 千円/人です。各施設でみると、洞鳴の滝ふれあい館が 4.4 千円/人と最も大きく、次いで、佐賀市市民活動プラザが 2.2 千円/人となっています。



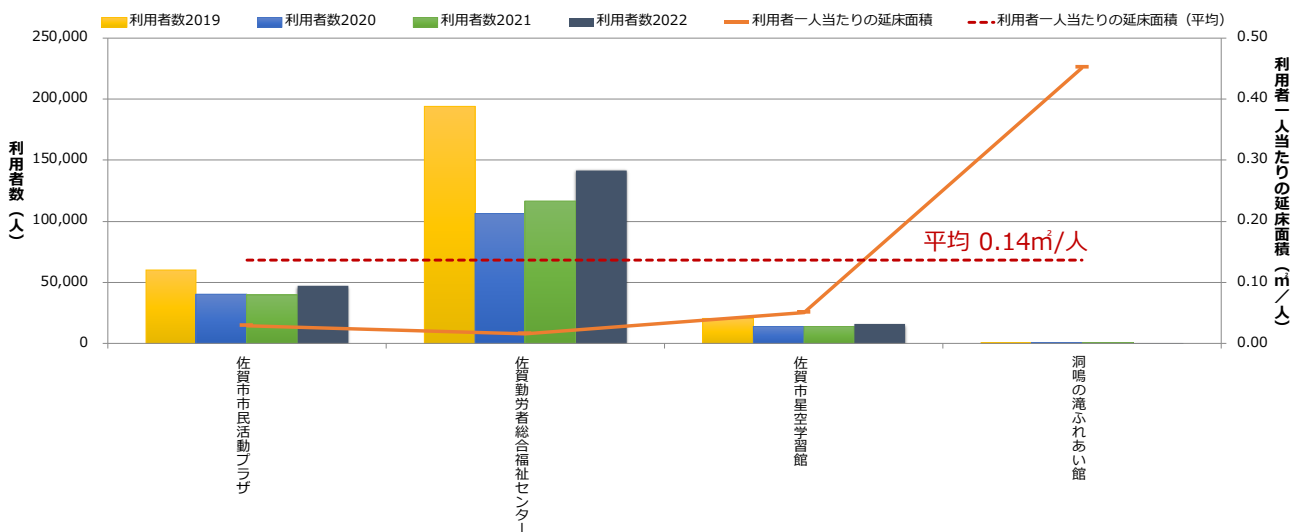
■延床面積当たりのコスト比較（集会施設）



■ 利用者一人当たりのコスト比較 (集会施設)

○ 利用状況

- 集会施設の利用者一人当たりの平均延床面積は、 $0.14 \text{ m}^2/\text{人}$ となっています。洞鳴の滝ふれあい館が平均を上回っています。
- 利用者数の推移は、4カ年で275,779人から204,971人と減少傾向にあります。2020年はコロナウイルスの影響を受け、利用者数が減少したものの、洞鳴の滝ふれあい館以外の施設で2021年、2022年は増加傾向にあります。
- 各施設の平均利用者数は、佐賀勤労者総合福祉センターが139,726人と最も多く、次いで、佐賀市市民活動プラザが46,998人となっています。



■ 利用者数と一人当たりの延床面積 (集会施設)

3) 分析結果

○施設性能

【施設の躯体に関する性能】

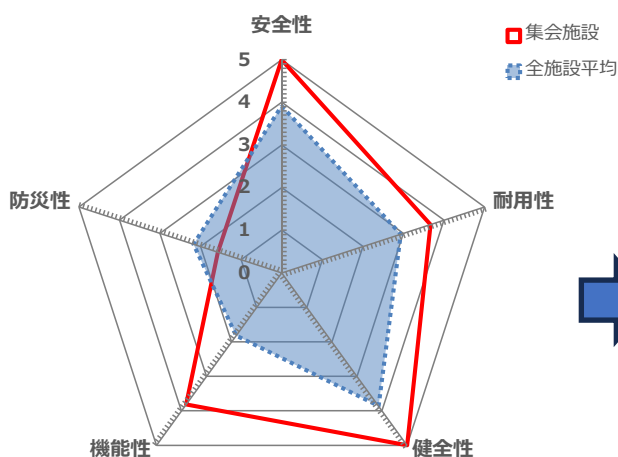
- 安全性：いずれの施設も耐震性能が新耐震基準を満足しています。
(例) 佐賀市市民活動プラザ、佐賀勤労者総合福祉センター、佐賀市星空学習館、洞鳴の滝ふれあい館
- 耐用性：いずれの施設も耐用年数を経過していません。
(例) 佐賀市市民活動プラザ、佐賀勤労者総合福祉センター、佐賀市星空学習館、洞鳴の滝ふれあい館
- 健全性：築 30 年を経過しています。
(例) 佐賀勤労者総合福祉センター、佐賀市星空学習館

【施設の設備等に関する性能】

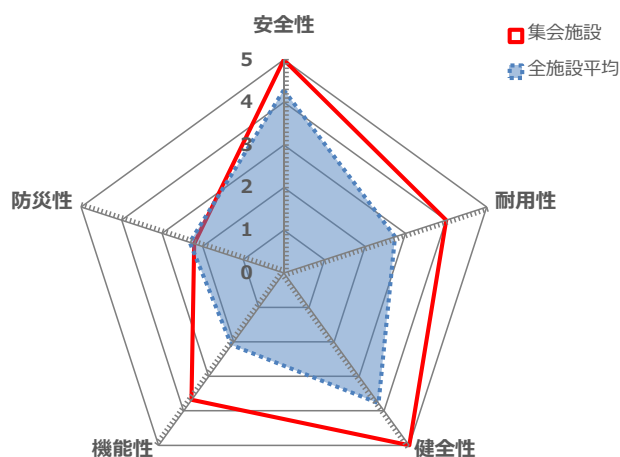
- 機能性：バリアフリーや環境配慮、アスベスト対策を実施している施設があります。
(例) 佐賀市市民活動プラザ、佐賀勤労者総合福祉センター、佐賀市星空学習館、洞鳴の滝ふれあい館
- 防災性：地域防災計画の指定や避難拠点設備の設置をしていない施設や不明となっている施設があります。
(例) 佐賀市市民活動プラザ、佐賀勤労者総合福祉センター、佐賀市星空学習館、洞鳴の滝ふれあい館

【性能の変化】

- 洞鳴の滝ふれあい館の新設により、類型全体として耐用性、防災性は向上、機能性は低下しています。



■レーダーチャート分析（集会施設）
【平成 29 年度分析】



■レーダーチャート分析（集会施設）
【令和 6 年度分析】

○施設評価

【評価指標】

- 利用・運営状況は、延べ床面積当たりのコストと利用者数にて評価しています。

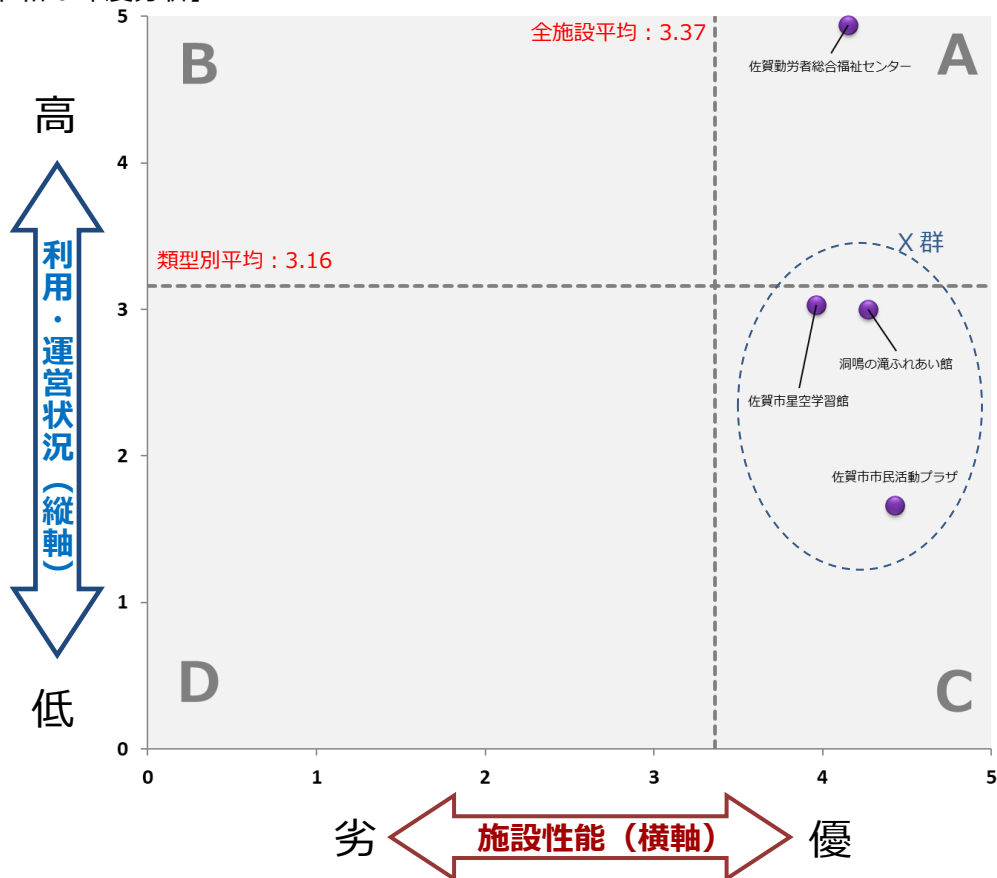
【評価区分の状況】

- 施設数はAが1施設、Cが3施設です。
- 面積割合はAが49%、Cが51%です。

【各施設の評価結果】

- A：施設性能が優れ、利用・運営状況も高い施設
(例) 佐賀勤労者総合福祉センター
- B：施設性能が劣っているが、利用・運営状況は高い施設
(例) 該当なし
- C：施設性能が優れているが、利用・運営状況は低い施設
(例) 佐賀市市民活動プラザ、佐賀市星空学習館、洞鳴の滝ふれあい館
- D：施設性能が劣り、利用・運営状況も低い施設
(例) 該当なし

【令和6年度分析】



■ポートフォリオ分析 (集会施設)

○本類型の考察

集会施設は、施設性能が優れているものの、利用・運営状況が低い傾向にある類型となっています。施設性能の維持やサービス提供に大きなコストを要しています。

今後老朽化に伴い、さらに維持費が増加していくことが予想されます。

今後検討すべき項目

- 利用・運営状況の改善に向けた取組みを検討する際には、利用の状況やコストの状況を把握していく必要があり、利用者数やサービス内容に対する施設規模やコストのバランスを見直し、それぞれの適正化が必要となります。
- 施設に余裕スペースがある場合は、施設性能が低い施設の機能を移転させ、複合化を図ることにより、住民サービスを充実させるなど、利用促進に向けた取組みを検討していく必要があります。

【特記事項】

(X群)

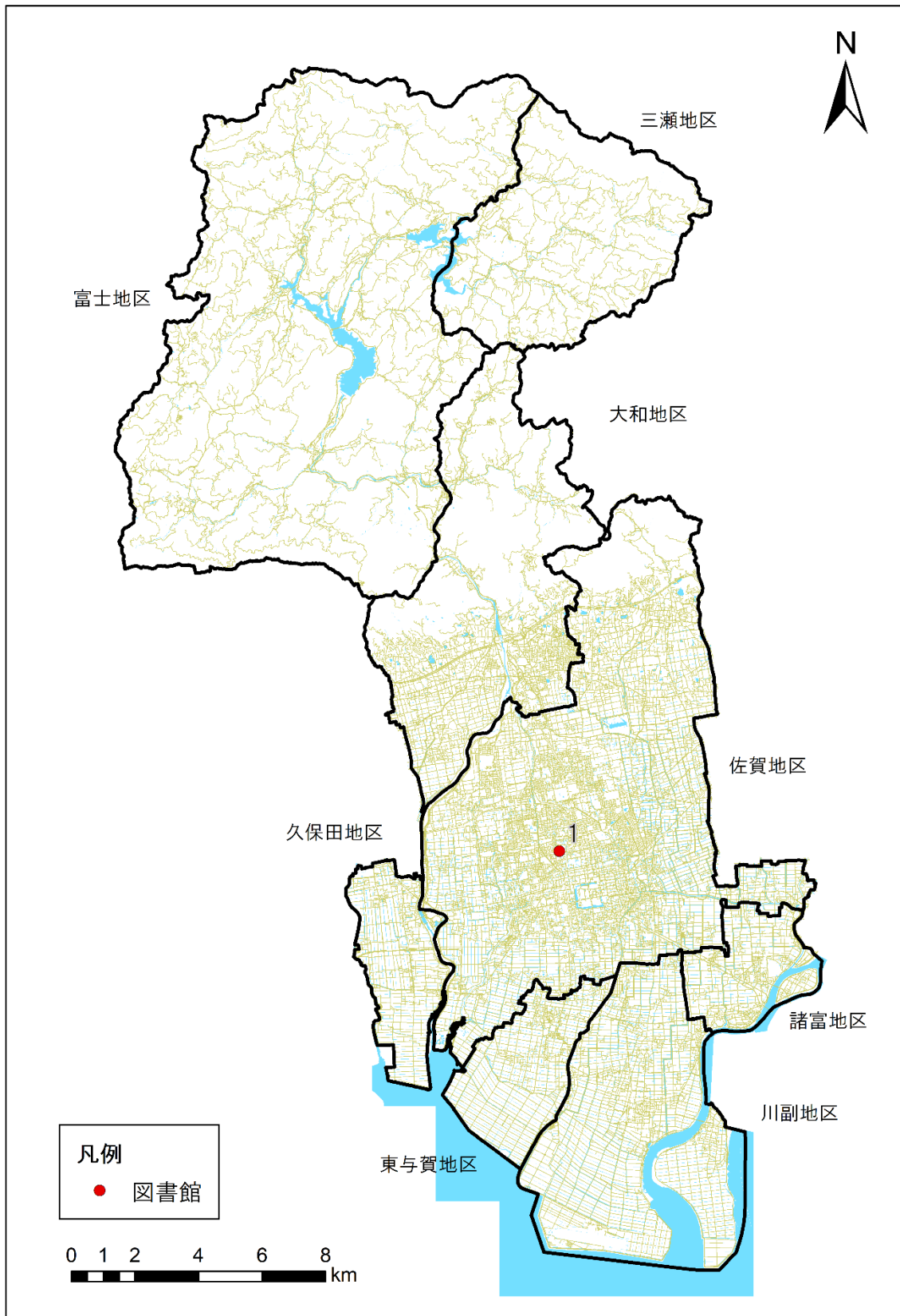
- 佐賀市市民活動プラザ、佐賀市星空学習館などは、施設性能が優れているにもかかわらず、利用・運営状況が非常に低い傾向にあります。今後、施設の老朽化が進み、建物に各種不具合が生じることが予想されます。
- 現状の施設を適切な管理により維持するとともに、利用・運営状況の改善に向けたソフト面での取組みを検討していく必要があります。

(例)

- ・ 市として施設を保有し続ける必要があるか、また市がサービスを提供する必要があるかを検討
施設名：佐賀市市民活動プラザ、佐賀市星空学習館、洞鳴の滝ふれあい館

3 - 5. 図書館

1) 概要



■施設の配置状況（図書館）

- 図書館は 1 施設を保有しています。
- 本類型の延床面積は、約 9,758 m²となっており、全施設の 1.2%を占めています。
- 築年数は、築 30 年未満となっています。
- 耐震性能の状況は、新耐震となっています。
- 市立図書館の分館 7 か所、分室 6 か所を公民館内等に保有しています。
- 分館は、春日公民館、諸富町公民館、東与賀文化ホール、富士公民館、三瀬公民館、南川副公民館、久保田公民館に、市立図書館大和館、市立図書館諸富館、市立図書館東与賀館、市立図書館富士館、市立図書館三瀬館、市立図書館川副館、市立図書館久保田館があります。
- 分室は、開成公民館、金立公民館、鍋島公民館、高木瀬公民館、本庄公民館、巨勢公民館に、開成分室、金立分室、鍋島分室、本庄分室、高木瀬分室、巨勢分室があります。

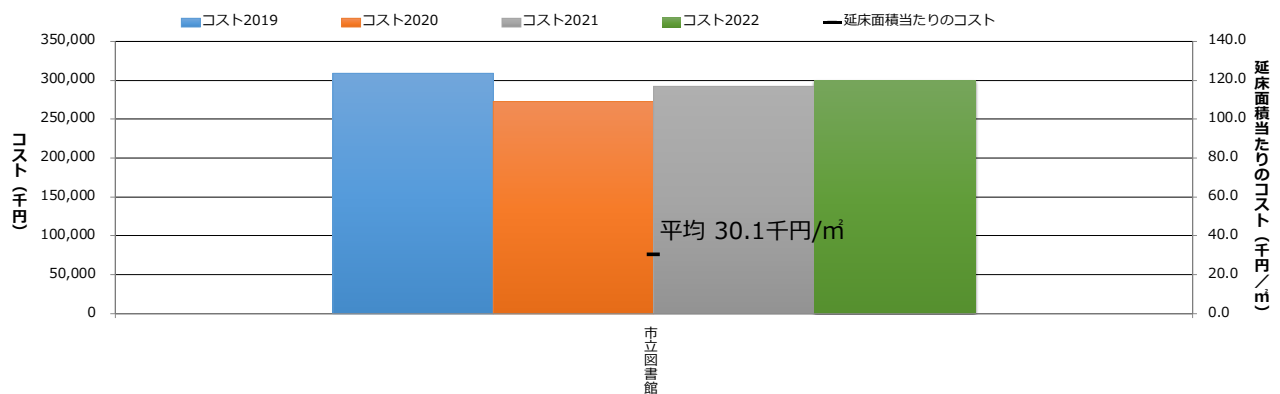
■施設の概要（図書館）

No.	施設分類		施設名	地区区分	所管課	建築年月	延床面積 (m ²)	構造	耐震診断	耐震改修
	中分類	小分類								
1	文化・集会施設	図書館	市立図書館	佐賀地区	図書館	1996年04月	9,758.29	RC造	新耐震	新耐震
合計							9,758.29			

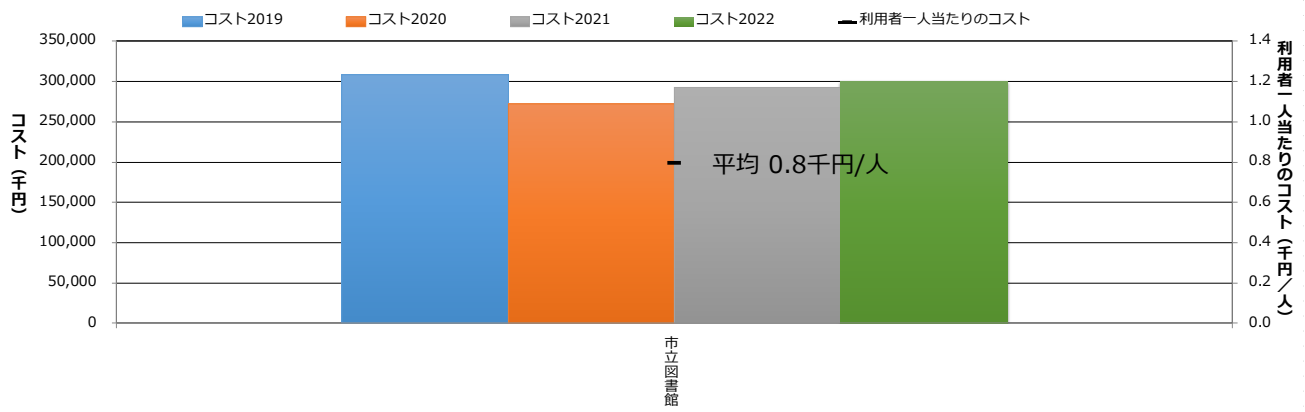
2) 現状把握

○コスト状況

- 図書館の 4 か年の平均コストは、293,305 千円となっており、全施設の平均コストの合計の 1.9%を占めています。
- 市立図書館は、人件費が最も大きく、その他に光熱水費、修繕費、管理委託料などの維持管理費として、65,000 千円から 90,000 千円のコストを要しています。
- 延床面積当たりの平均コストは、30.1 千円/m²です。



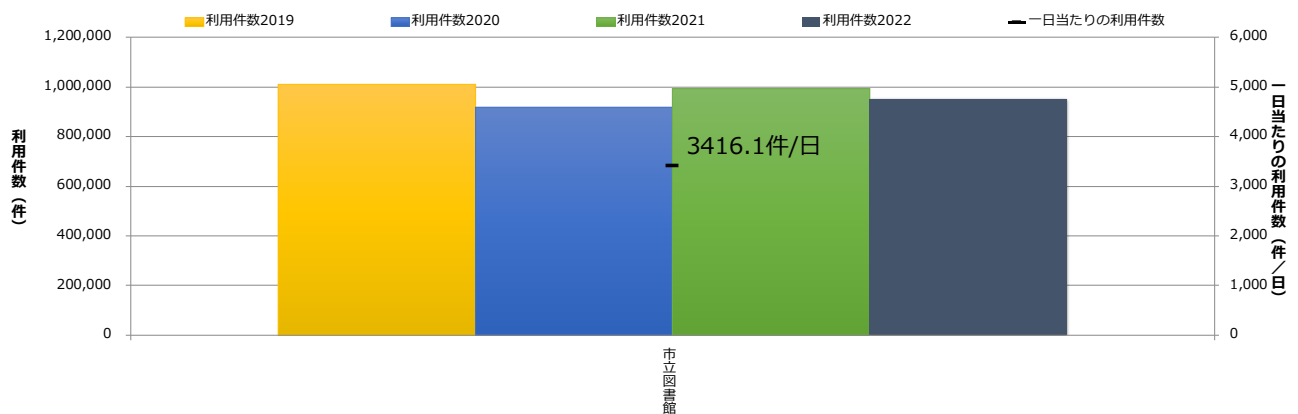
■延床面積当たりのコスト比較（図書館）



■利用者一人当たりのコスト比較（図書館）

○利用状況

- 図書館の一日当たりの平均利用件数は、3416.1 件/日となっています。
- 利用件数（貸出点数）の推移は、4 年で 1,011,400 件から 950,201 件と減少傾向にあります。



■利用件数と一日当たりの利用件数（図書館）

3) 分析結果

○施設性能

【施設の躯体に関する性能】

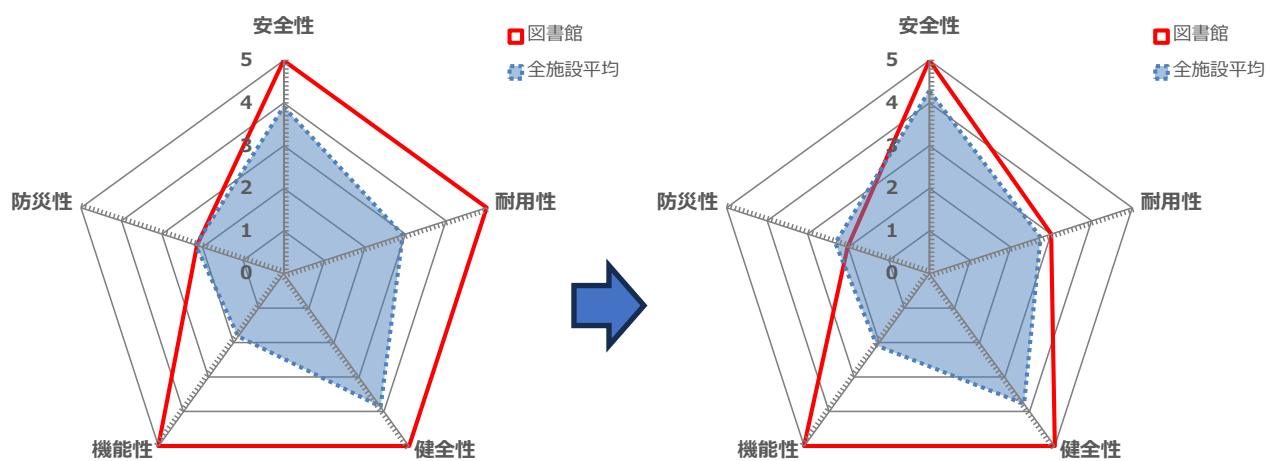
- 安全性：耐震性能が新耐震基準を満足しています。
- 耐用性：耐用年数を経過していませんが、耐用年数の半分を経過しています。
- 健全性：築 30 年を経過していません。

【施設の設定等に関する性能】

- 機能性：バリアフリーや環境配慮、アスベスト対策を実施しています。
- 防災性：地域防災計画の指定がされていません。

【性能の変化】

- 耐用年数の 1/2 を迎えたことにより、耐用性が低下しています。



■レーダーチャート分析（図書館）

【平成 29 年度分析】

■レーダーチャート分析（図書館）

【令和 6 年度分析】

○施設評価

【評価指標】

- 利用・運営状況は、延べ床面積当たりのコストと利用者数にて評価しています。

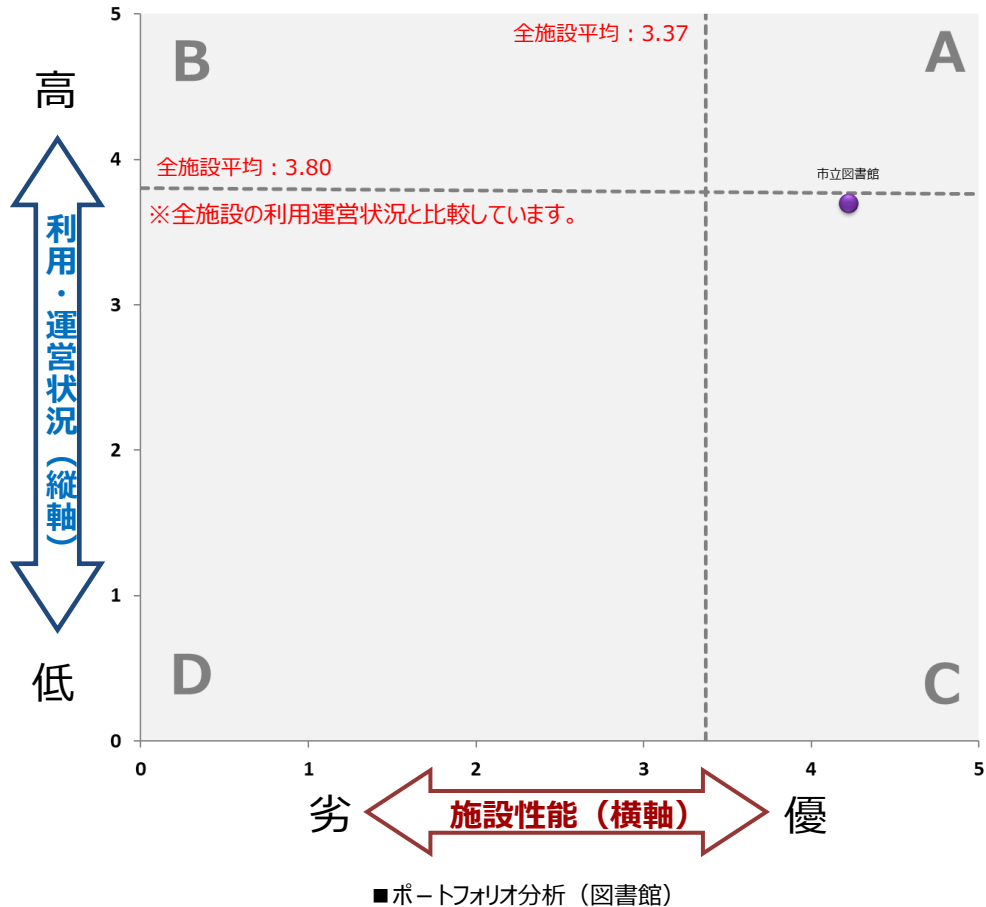
【評価区分の状況】

- 施設数はCが1施設です。
- 面積割合はCが100%です。

【各施設の評価結果】

- A：施設性能が優れ、利用・運営状況も高い施設
(例) 該当なし
- B：施設性能が劣っているが、利用・運営状況は高い施設
(例) 該当なし
- C：施設性能が優れているが、利用・運営状況は低い施設
(例) 市立図書館
- D：施設性能が劣り、利用・運営状況も低い施設
(例) 該当なし

【令和6年度分析】



○本類型の考察

図書館は、施設性能は優れているものの、利用・運営状況は全施設平均と変わらない傾向にある類型となっています。施設性能の維持やサービス提供に大きなコストを要しています。

今後老朽化に伴い、さらに維持費が増加していくことが予想されます。

今後検討すべき項目

- 利用・運営状況の改善に向けた取組みを検討する際には、利用の状況やコストの状況を把握していく必要があります。利用者数やサービス内容に対する施設規模やコストのバランスを見直し、それぞれの適正化が必要となります。
- 施設に余裕スペースがある場合は、施設性能が低い施設の機能を移転させ、複合化を図ることにより、住民サービスを充実させるなど、利用促進に向けた取組みを検討していく必要があります。

【特記事項】

- 市立図書館は、施設性能も利用・運営状況も優れていますが、耐用年数の半分を経過し、今後、施設の老朽化が進み、建物に各種不具合が生じることが予想されます。
- 現状の施設を適切な管理により維持するとともに、利用・運営状況の改善に向けたソフト面での取組みを検討していく必要があります。

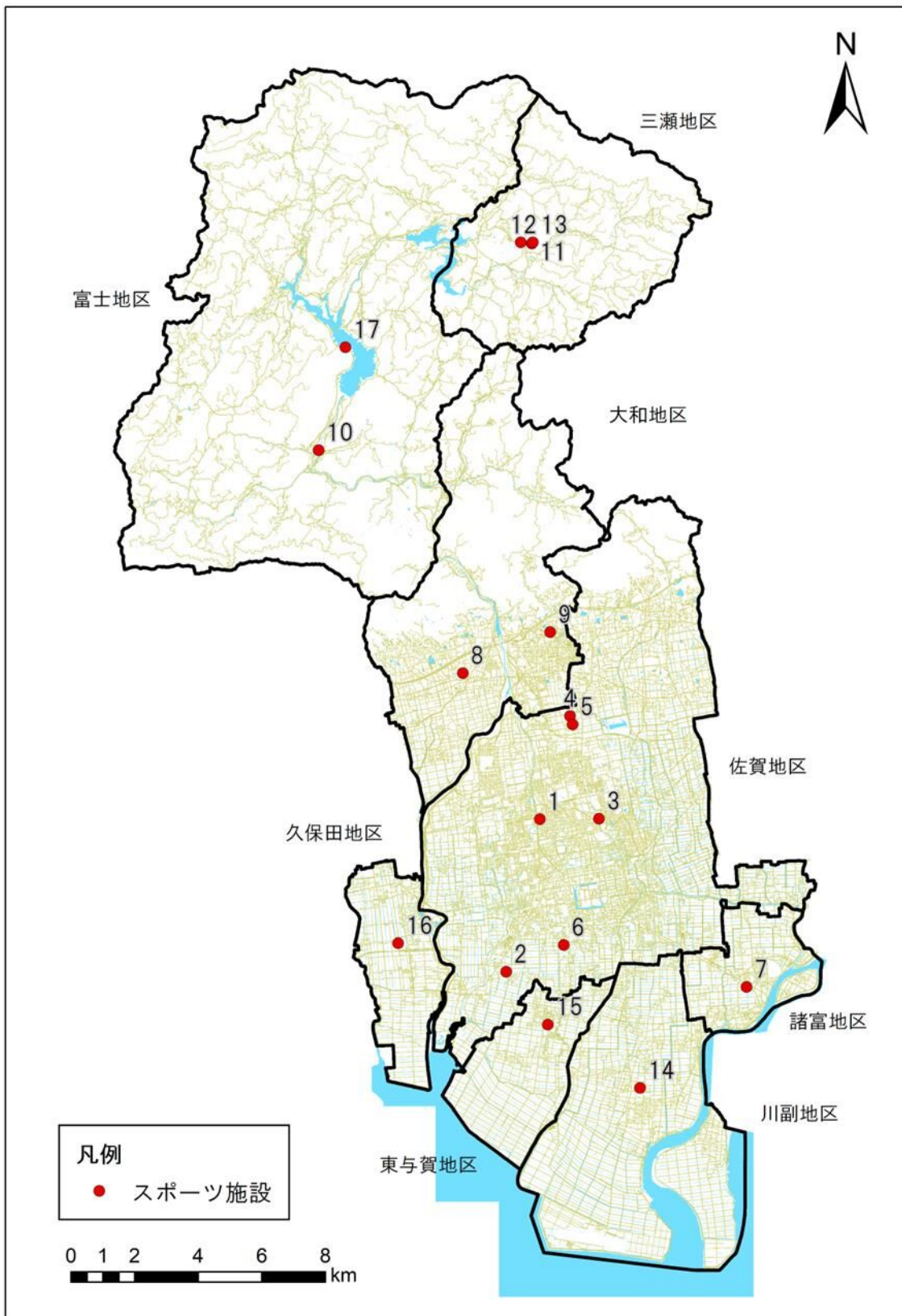
(例)

- ・ 市として施設を保有し続ける必要があるか、また市がサービスを提供する必要があるかを検討
- ・ 県や他市との広域的な連携を考慮した蔵書管理などのソフト面での検討

施設名：市立図書館

3-6. スポーツ施設

1) 概要



■施設の配置状況 (スポーツ施設)

- スポーツ施設は、17 施設を保有しています。
- 本類型の延床面積は、約 31,039 m²となっており、全施設の 3.9%を占めています。
- 各施設の延床面積は、諸富文化体育館が約 6,528 m²と最も大きく、次いで、スポーツパーク川副が約 5,781 m²となっています。
- 築年数は、延床面積の 37.4%が築 30 年以上経過しています。
- 耐震性能の状況は、延床面積の 93.2%が新耐震及び耐震改修済となっています。

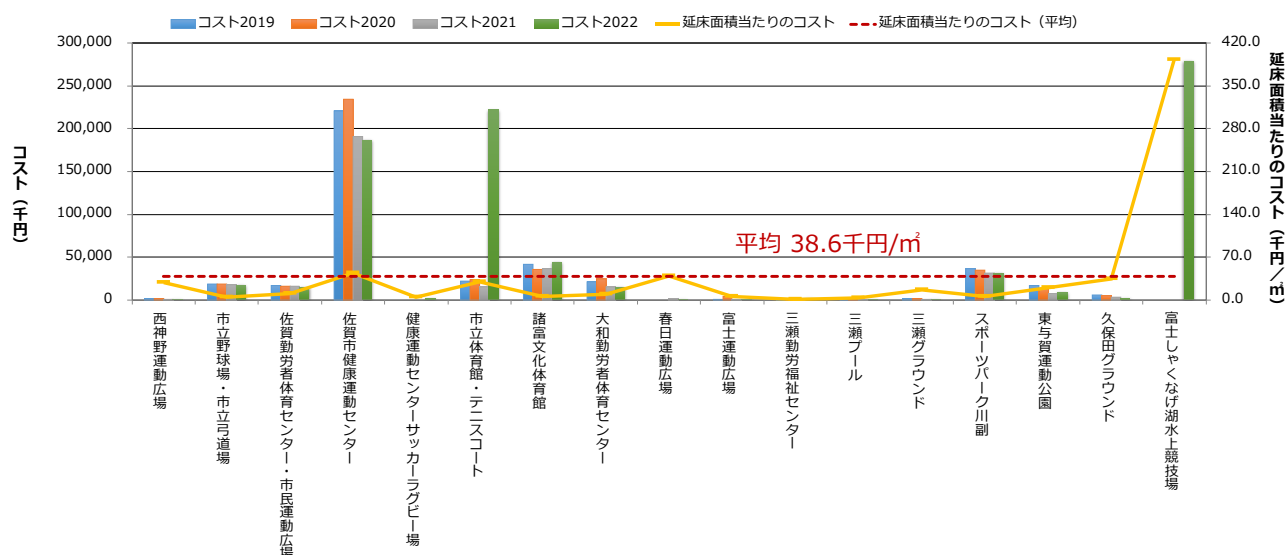
■施設の概要（スポーツ施設）

No.	施設分類		施設名	地区区分	所管課	建築年月	延床面積 (m ²)	構造	耐震診断	耐震改修
	中分類	小分類								
1	健康・スポーツ施設	スポーツ施設	西神野運動広場	佐賀地区	スポーツ振興課	1982年	29.00	W造	新耐震	新耐震
2	健康・スポーツ施設	スポーツ施設	市立野球場・市立弓道場	佐賀地区	スポーツ振興課	1995年09月	4,349.28	RC造	新耐震	新耐震
3	健康・スポーツ施設	スポーツ施設	佐賀勤労者体育センター・市民運動広場	佐賀地区	スポーツ振興課	1980年06月	1,516.41	RC造	不明	不明
4	健康・スポーツ施設	スポーツ施設	佐賀市健康運動センター	佐賀地区	スポーツ振興課	2004年03月	4,769.23	RC造	新耐震	新耐震
5	健康・スポーツ施設	スポーツ施設	健康運動センターサッカーラグビー場	佐賀地区	スポーツ振興課	2014年03月	481.41	RC造	新耐震	新耐震
6	健康・スポーツ施設	スポーツ施設	市立体育館・テニスコート	佐賀地区	スポーツ振興課	1996年07月	2,387.51	RC造	新耐震	新耐震
7	健康・スポーツ施設	スポーツ施設	諸富文化体育館	諸富地区	スポーツ振興課	1996年06月	6,528.39	RC造	新耐震	新耐震
8	健康・スポーツ施設	スポーツ施設	大和勤労者体育センター	大和地区	スポーツ振興課	1983年03月	1,960.87	RC造	新耐震	新耐震
9	健康・スポーツ施設	スポーツ施設	春日運動広場	大和地区	スポーツ振興課	1986年03月	31.98	CB造	新耐震	新耐震
10	健康・スポーツ施設	スポーツ施設	富士運動広場	富士地区	スポーツ振興課	1983年08月	345.75	RC造	新耐震	新耐震
11	健康・スポーツ施設	スポーツ施設	三瀬勤労福祉センター	三瀬地区	スポーツ振興課	1984年03月	1,152.16	RC造	新耐震	新耐震
12	健康・スポーツ施設	スポーツ施設	三瀬プール	三瀬地区	スポーツ振興課	1999年03月	213.50	S造	新耐震	新耐震
13	健康・スポーツ施設	スポーツ施設	三瀬グラウンド	三瀬地区	スポーツ振興課	1981年	72.35	W造	新耐震	新耐震
14	健康・スポーツ施設	スポーツ施設	スポーツパーク川副	川副地区	スポーツ振興課	1981年10月	5,781.45	RC造	新耐震	実施済
15	健康・スポーツ施設	スポーツ施設	東与賀運動公園	東与賀地区	スポーツ振興課	1966年	590.39	S造	未実施	未実施
16	健康・スポーツ施設	スポーツ施設	久保田グラウンド	久保田地区	スポーツ振興課	1993年03月	119.54	S造	新耐震	新耐震
17	健康・スポーツ施設	スポーツ施設	富士しゃくなげ湖水上競技場	富士地区	スポーツ振興課	2022年5月	709.42	W造	新耐震	新耐震
合計							31,038.64			

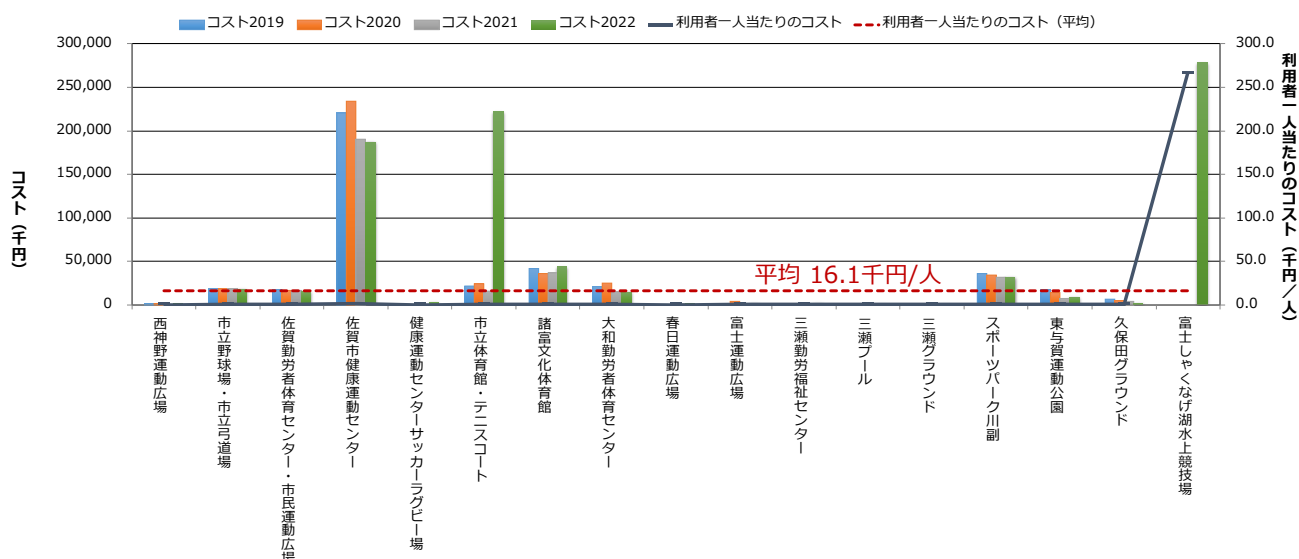
2) 現状把握

○コスト状況

- スポーツ施設の4カ年の平均コストは、708,761千円となっており、全施設のコストの合計の4.5%を占めています。
- 各施設のコストは、富士しゃくなげ湖水上競技場が278,121千円と最も大きく、次いで、佐賀市健康運動センターが208,103千円となっています。
- 佐賀市健康運動センター、市立体育館・テニスコート、富士しゃくなげ湖水上競技場は、臨時的経費の発生に伴い、コストが大きく突出しています。
- 延床面積当たりの平均コストは、38.6千円/m²です。各施設で見ると、富士しゃくなげ湖水上競技場が392.0千円/m²と最も大きく、次いで、佐賀市健康運動センターが43.6千円/m²となっています。
- 利用者一人当たりの平均コストは、16.1千円/人です。各施設で見ると、富士しゃくなげ湖水上競技場が266.4千円/人と最も大きく、次いで、佐賀市健康運動センターが1.4千円/人となっています。



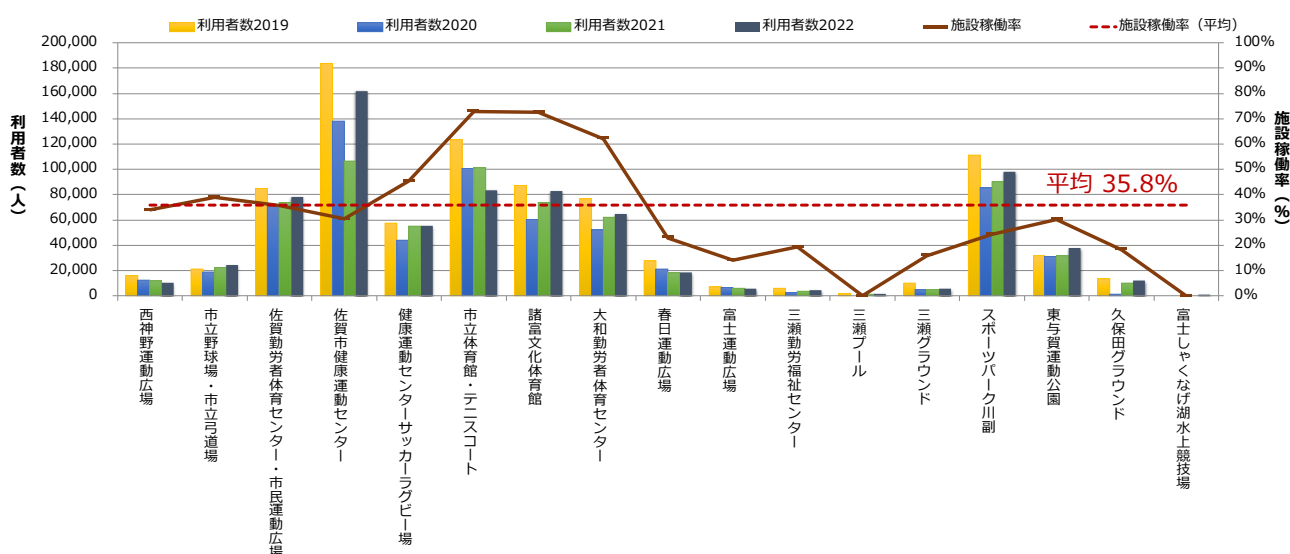
■ 延床面積当たりのコスト比較（スポーツ施設）



■ 利用者一人当たりのコスト比較（スポーツ施設）

○利用状況

- スポーツ施設の4カ年の平均の施設稼働率は、35.8%となっています。市立野球場・市立弓道場、健康運動センターサッカーラグビー場、市立体育館・テニスコート、諸富文化体育館、大和勤労者体育センター、5施設が平均を上回っています。
- 利用者数の推移は、4カ年で859,627人から747,534人と減少傾向にあります。2020年はコロナウイルスの影響を受け、利用者数が減少したものの、各施設で2021年、2022年は増加傾向にあります。
- 各施設の平均利用者数は、佐賀市健康運動センターが147,713人と最も多く、次いで、市立体育館・テニスコートが102,226人となっています。一方、富士運動広場、三瀬勤労福祉センター、三瀬プール、三瀬グラウンド、久保田グラウンド、富士しゃくなげ湖水上競技場は、平均利用者数が10,000人未満となっています。



■利用者数と施設稼働率（スポーツ施設）

3) 分析結果

○施設性能

【施設の躯体に関する性能】

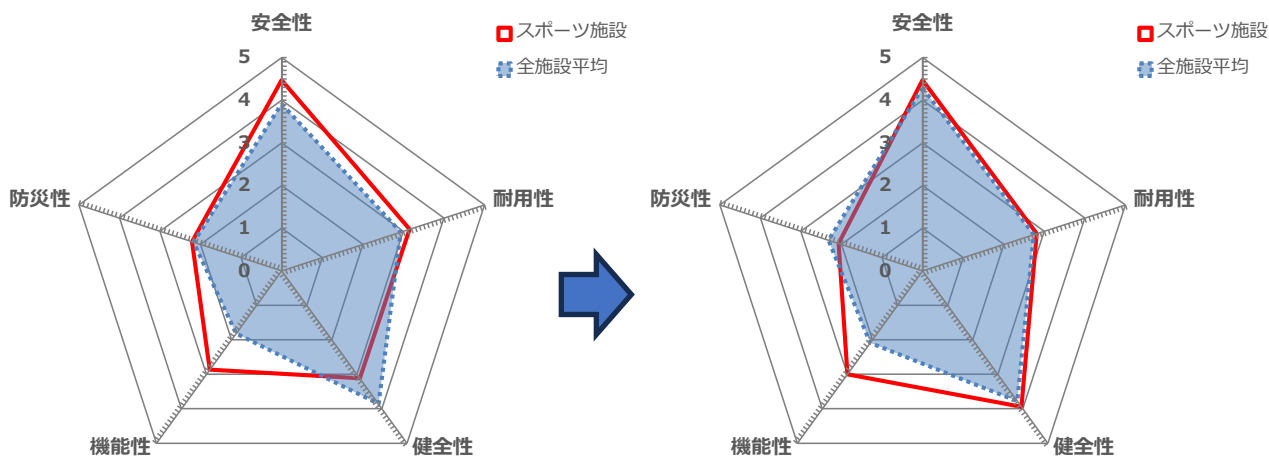
- 安全性：多くの施設で耐震性能が新耐震基準を満足している、もしくは耐震改修が実施済となっています。
(例) 西神野運動広場、市立野球場・市立弓道場 など
- 耐用性：老朽化が進行しているものの、耐用年数を経過していない施設があります。
(例) 市立野球場・市立弓道場、佐賀勤労者体育センター・市民運動広場 など
- 健全性：大規模改修や設備改修を実施していない施設があります。
(例) 西神野運動広場、春日運動広場 など

【施設の設備等に関する性能】

- 機能性：バリアフリーや環境配慮、アスベスト対策を実施している施設があります。
(例) 西神野運動広場、市立野球場・市立弓道場 など
- 防災性：地域防災計画の指定や避難拠点設備の設置をしている施設があります。
(例) 佐賀市健康運動センター、健康運動センターサッカーラグビー場 など

【性能の変化】

- 各施設の経年劣化により、類型全体として耐用性が低下しています。一方で、大規模改修や設備改修の実施により、健全性の向上が見られます。



■レーダーチャート分析 (スポーツ施設)

【平成 29 年度分析】

■レーダーチャート分析 (スポーツ施設)

【令和 6 年度分析】

○施設評価

【評価指標】

- 利用・運営状況は、延べ床面積当たりのコストと稼働率にて評価しています。
※三瀬プール、富士しゃくなげ湖水上競技場の稼働率は不明となっているため、利用・運営状況の評価点数が低くなっています。

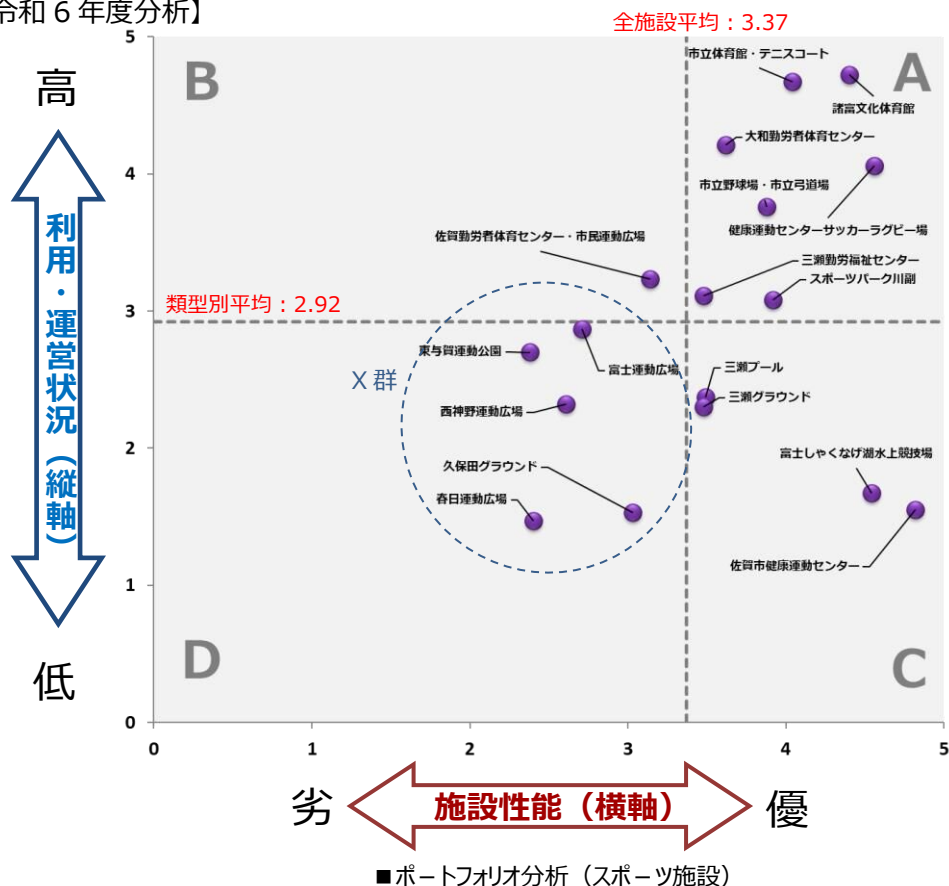
【評価区分の状況】

- 施設数はAが7施設、Bが1施設、Cが4施設、Dが5施設です。
- 面積割合はAが73%、Bが5%、Cが19%、Dが4%です。

【各施設の評価結果】

- A：施設性能が優れ、利用・運営状況も高い施設
(例) 市立野球場・市立弓道場、諸富文化体育館、スポーツパーク川副 など
- B：施設性能が劣っているが、利用・運営状況は高い施設
(例) 佐賀勤労者体育センター・市民運動広場
- C：施設性能が優れているが、利用・運営状況は低い施設
(例) 三瀬プール、三瀬グラウンド、佐賀市健康運動センター、富士しゃくなげ湖水上競技場
- D：施設性能が劣り、利用・運営状況も低い施設
(例) 西神野運動広場、富士運動広場、久保田グラウンド、東与賀運動公園 など

【令和6年度分析】



○本類型の考察

スポーツ施設は、施設性能が優れているものの、利用・運営状況が低い傾向にある類型となっています。施設性能の維持やサービス提供に大きなコストを要しています。

比較的新しい施設も多いため、今後老朽化に伴い、さらに維持費が増加していくことが予想されます。

今後検討すべき項目

- 利用・運営状況の改善に向けた取組みを検討する際には、利用の状況やコストの状況を把握していく必要があり、利用者数やサービス内容に対する施設規模やコストのバランスを見直し、それぞれの適正化が必要となります。
- 施設に余裕スペースがある場合は、施設性能が低い施設の機能を移転させ、複合化を図ることにより、住民サービスを充実させるなど、利用促進に向けた取組みを検討していく必要があります。

【特記事項】

(X群)

- 東与賀運動公園、富士運動広場などは、施設性能および利用・運営状況がともに低い傾向にあります。
- 今後、施設の改修や更新を検討する場合には、施設の利用・運営状況の改善などソフト面の取組みを検討していく必要があります。

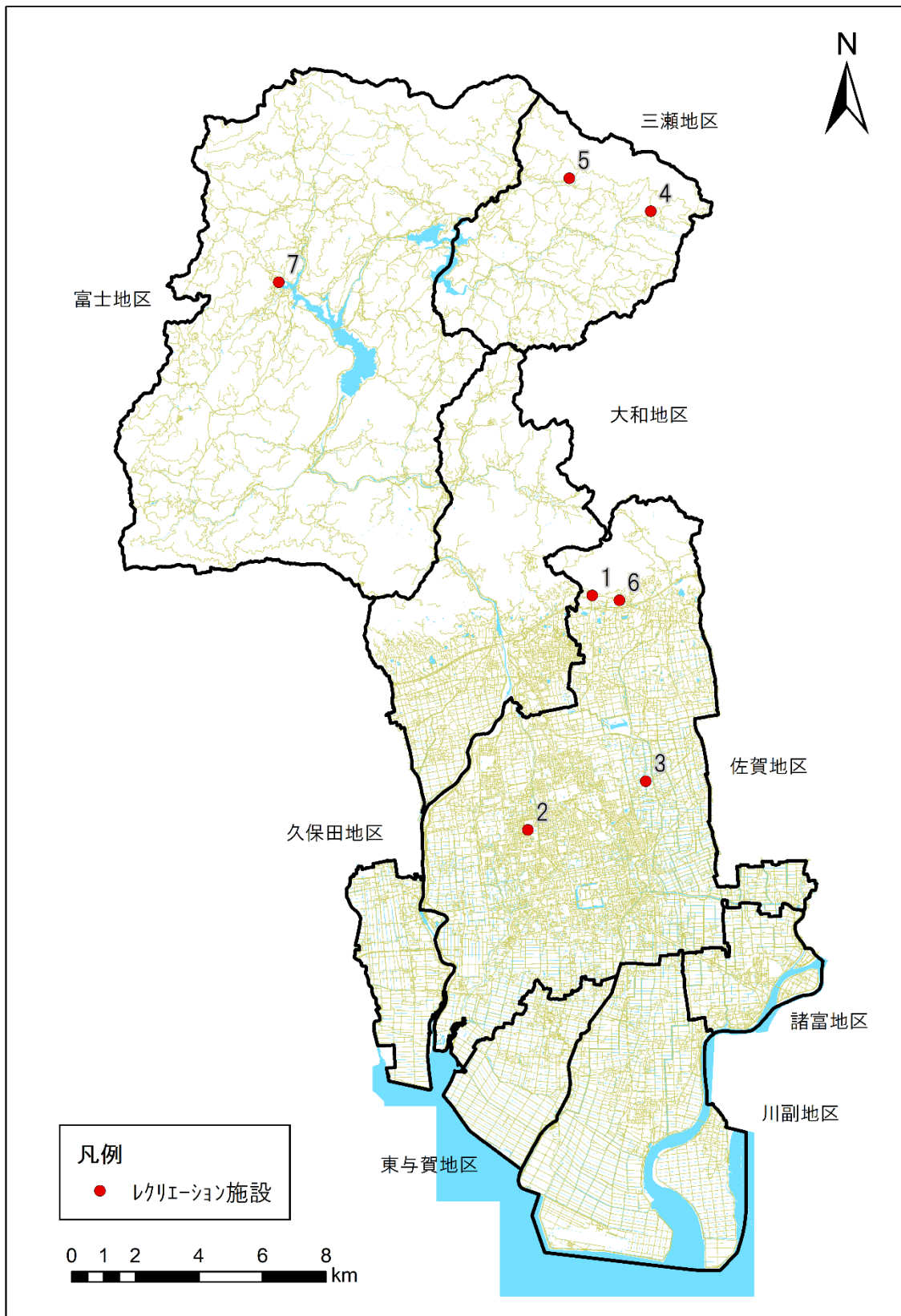
(例)

- ・ 市として施設を保有し続ける必要があるか、また市がサービスを提供する必要があるかを検討
- ・ 現在の場所や建物でなくても可能な場合、施設性能の優れている施設へ機能の集約化を図ること など

施設名：東与賀運動公園、西神野運動広場、富士運動広場、春日運動広場、久保田グラウンド

3-7. レクリエーション施設

1) 概要



■施設の配置状況 (レクリエーション施設)

- レクリエーション施設は、7 施設を保有しています。
- 本類型の延床面積は、約 1,951 m²となっており、全施設の 0.2%を占めています。
- 各施設の延床面積は、佐賀市クreek公園（四季のめぐみ館）が約 819 m²と最も大きく、次いで、神水川公園大串地区が約 308 m²となっています。
- 築年数は、延床面積の 29.8%が築 30 年以上経過しています。
- 耐震性能の状況は、延床面積の 97.1%が新耐震となっています。

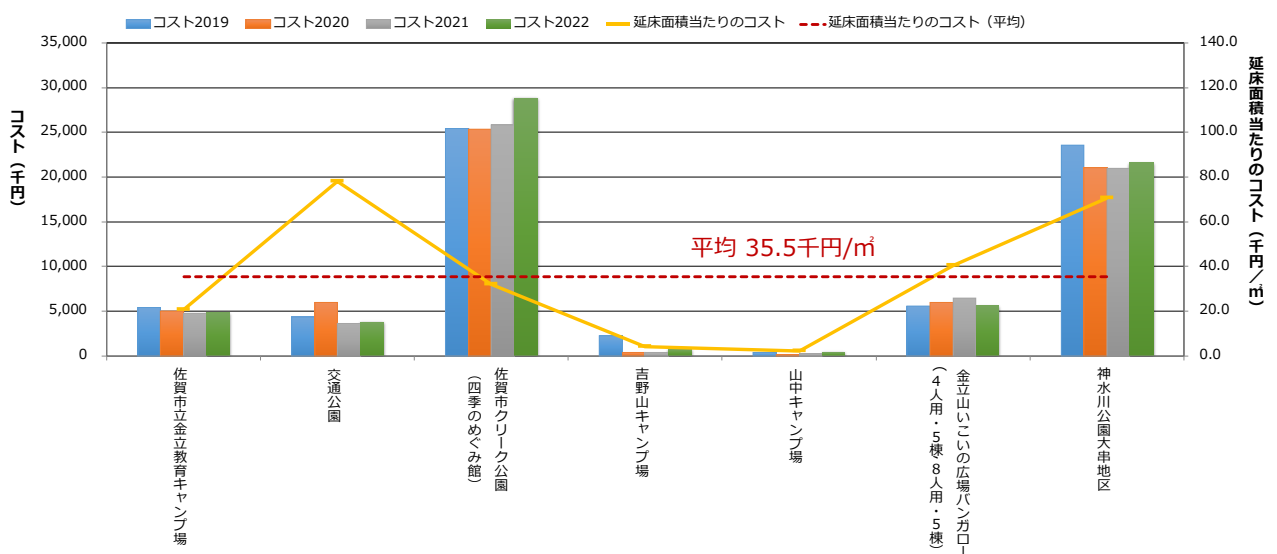
■施設の概要（レクリエーション施設）

No.	施設分類		施設名	地区区分	所管課	建築年月	延床面積 (m ²)	構造	耐震診断	耐震改修
	中分類	小分類								
1	健康・スポーツ施設	レクリエーション施設	佐賀市立金立教育キャンプ場	佐賀地区	社会教育課	1996年03月	242.50	W造	新耐震	新耐震
2	健康・スポーツ施設	レクリエーション施設	交通公園	佐賀地区	生活安全課	1970年04月	57.03	W造	未実施	未実施
3	健康・スポーツ施設	レクリエーション施設	佐賀市クreek公園（四季のめぐみ館）	佐賀地区	農業振興課	2000年03月	818.89	S造	新耐震	新耐震
4	健康・スポーツ施設	レクリエーション施設	吉野山キャンプ場	三瀬地区	北部建設事務所	1991年02月	226.09	W造	新耐震	新耐震
5	健康・スポーツ施設	レクリエーション施設	山中キャンプ場	三瀬地区	北部建設事務所	1987年03月	152.02	W造	新耐震	新耐震
6	健康・スポーツ施設	レクリエーション施設	金立山いこいの広場バンガロー（4人用・5棟、8人用・5棟）	佐賀地区	緑化推進課	1985年10月	146.00	W造	新耐震	新耐震
7	健康・スポーツ施設	レクリエーション施設	神水川公園大串地区	富士地区	北部建設事務所	2013年3月	308.41	RC造	新耐震	新耐震
合計							1,950.94			

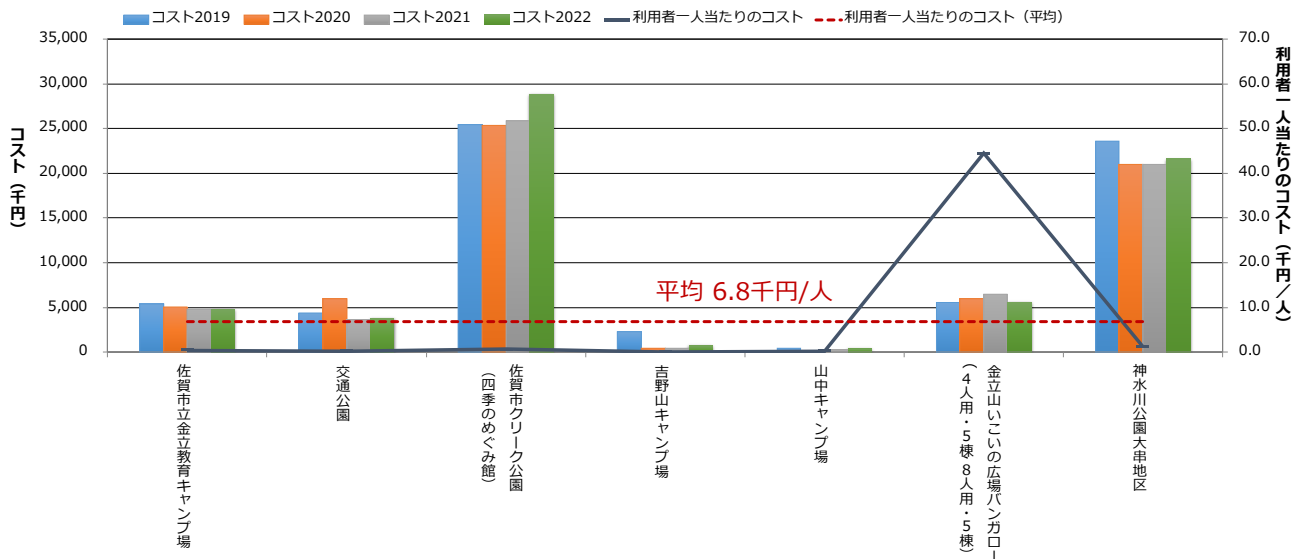
2) 現状把握

○コスト状況

- レクリエーション施設の 4 年の平均コストは、64,800 千円となっており、全施設の平均コストの合計の 0.4%を占めています。
- 各施設の平均コストは、佐賀市クreek公園（四季のめぐみ館）が 26,355 千円と最も大きく、次いで、神水川公園大串地区が 21,790 千円となっています。
- 延床面積当たりの平均コストは、35.5 千円/m²です。各施設で見ると、交通公園が 78.1 千円/m²と最も大きく、次いで、神水川公園大串地区が 70.7 千円/m²となっています。
- 利用者一人当たりの平均コストは、6.8 千円/人です。各施設で見ると、金立山いこいの広場バンガロー（4人用・5棟、8人用・5棟）が 44.5 千円/人と最も大きく、次いで、神水川公園大串地区が 1.1 千円/人となっています。



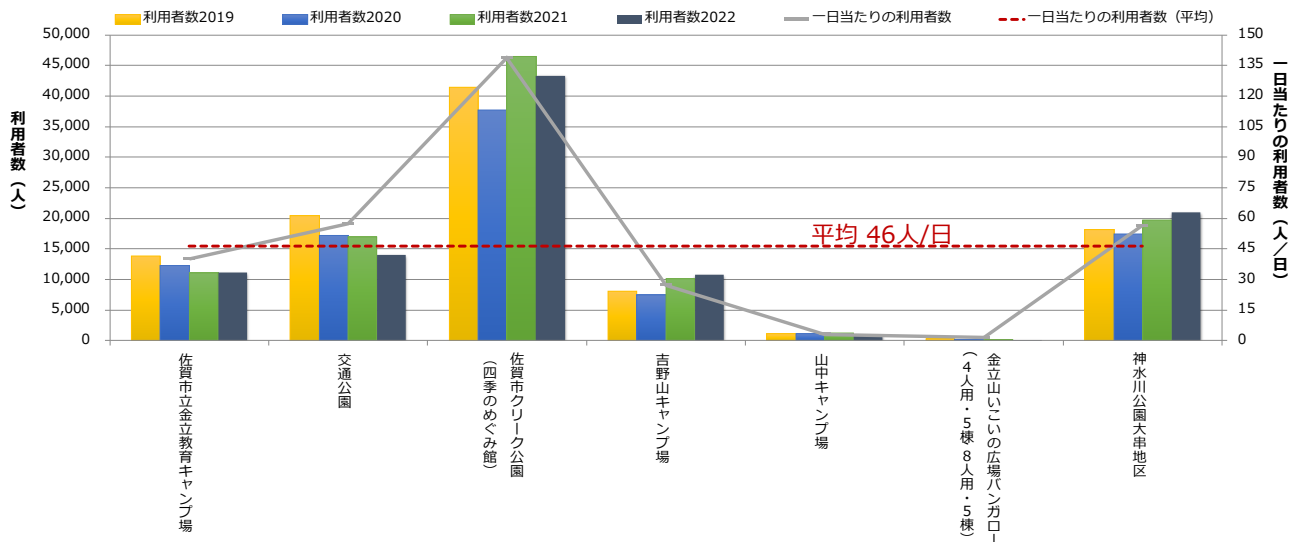
■延床面積当たりのコスト比較（レクリエーション施設）



■利用者一人当たりのコスト比較 (レクリエーション施設)

○利用状況

- レクリエーション施設の一日当たりの利用者数は、平均 46 人/日となっています。交通公園、佐賀市クリーク公園（四季のめぐみ館）、神水川公園大串地区が平均を上回っています。
- 利用者数の推移は、4 年間で 103,596 人から 101,466 人と減少傾向にあります。
- 各施設の平均利用者数は、佐賀市クリーク公園（四季のめぐみ館）が 42,277 人と最も多く、次いで、神水川公園大串地区が 19,083 人となっています。一方で、吉野山キャンプ場、山中キャンプ場、金立山いこいの広場バンガロー（4人用・5棟, 8人用・5棟）は、平均利用者数が 10,000 人未満となっています。



■利用者数と一日当たりの延床面積 (レクリエーション施設)

3) 分析結果

○施設性能

【施設の躯体に関する性能】

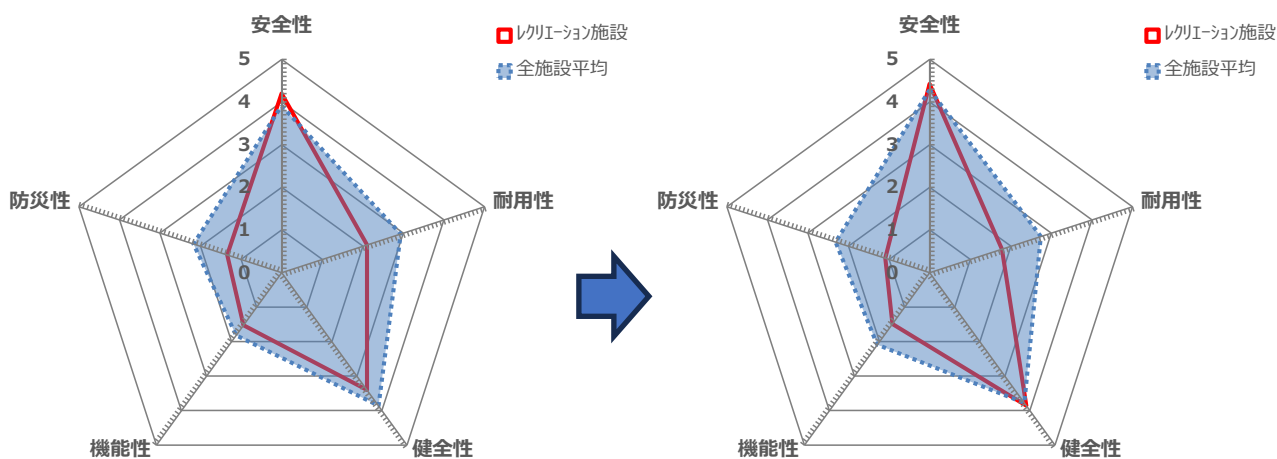
- 安全性：多くの施設で耐震性能が新耐震基準を満足しています。
(例) 佐賀市立金立教育キャンプ場、佐賀市クリーク公園（四季のめぐみ館） など
- 耐用性：多くの施設で耐用年数を経過しています。
(例) 佐賀市立金立教育キャンプ場、交通公園 など
- 健全性：大規模改修や設備改修を実施していない施設があります。
(例) 佐賀市立金立教育キャンプ場、佐賀市クリーク公園（四季のめぐみ館） など

【施設の設備等に関する性能】

- 機能性：バリアフリーや環境配慮、アスベスト対策を実施していない施設や不明となっている施設があります。
(例) 佐賀市立金立教育キャンプ場、交通公園 など
- 防災性：地域防災計画の指定や避難拠点設備の設置をしていない施設や不明となっている施設があります。
(例) 佐賀市立金立教育キャンプ場、交通公園 など

【性能の変化】

- 各施設の経年劣化により、類型全体として耐用性の低下が見られます。一方で、大規模改修や設備改修の実施により、健全性の向上が見られます。



■レーダーチャート分析（レクリエーション施設）

【平成 29 年度分析】

■レーダーチャート分析（レクリエーション施設）

【令和 6 年度分析】

○施設評価

【評価指標】

- 利用・運営状況は、延べ床面積当たりのコストと利用者数にて評価しています。

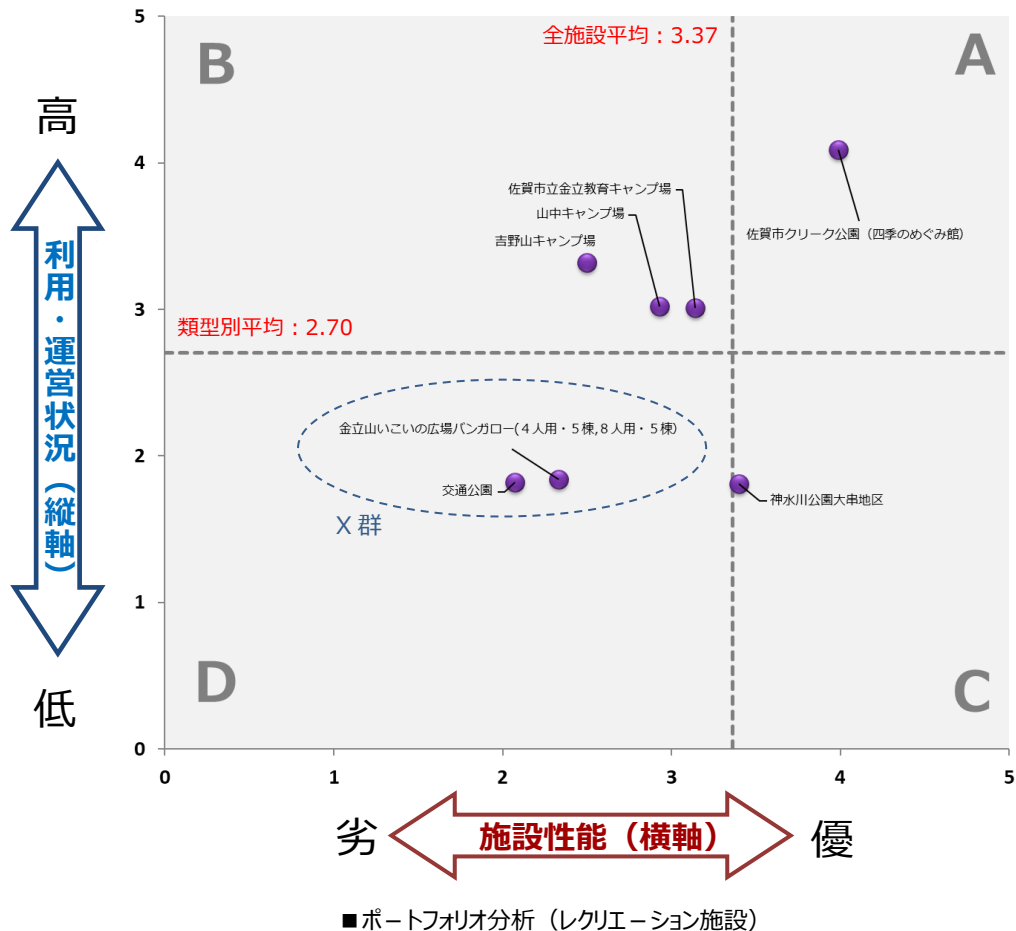
【評価区分の状況】

- 施設数はAが1施設、Bが3施設、Cが1施設、Dが2施設です。
- 面積割合はAが42%、Bが32%、Cが16%、Dが10%です。

【各施設の評価結果】

- A：施設性能が優れ、利用・運営状況も高い施設
(例) 佐賀市クリーク公園(四季のめぐみ館)
- B：施設性能が劣っているが、利用・運営状況は高い施設
(例) 佐賀市立金立教育キャンプ場、山中キャンプ場、吉野山キャンプ場
- C：施設性能が優れているが、利用・運営状況は低い施設
(例) 神水川公園大串地区
- D：施設性能が劣り、利用・運営状況も低い施設
(例) 金立山いこいの広場バンガロー(4人用・5棟, 8人用・5棟)、交通公園

【令和6年度分析】



○本類型の考察

レクリエーション施設は、施設性能が劣っており、利用・運営状況も低い傾向にある類型となっています。

老朽化の進行した施設も多く、今後、利用を継続するうえで改修・更新等が必要であると考えられ、それらに大きなコストを要することが予想されます。

今後検討すべき項目

- 今後の施設のあり方を検討する際には、市として施設を保有し続ける必要があるか、また市がサービスを提供する必要があるかを見直す必要があります。
- 見直しの結果、市で施設を保有する必要がある場合は、早急かつ計画的に改修・更新等を行う必要があります。あるいは、市がサービスを提供する必要があるが、現在の場所や建物でなくても可能な場合、施設性能の優れている施設へ機能の集約化を図ることにより、延床面積を削減しつつ、住民サービスを充実させる取組みが考えられます。

【特記事項】

(X群)

- 交通公園、金立山いこいの広場バンガロー(4人用・5棟, 8人用・5棟)は、施設性能や利用・運営状況が低い傾向にあります。今後、さらに施設の老朽化が進み、建物に各種不具合が生じることが予想されます。
- 施設の更新を検討する際には、利用・運営状況の改善も含めたハードとソフトの両面での取組みを検討していく必要があります。

(例)

- ・ 市として施設を保有し続ける必要があるか、また市がサービスを提供する必要があるかを検討
- ・ 他の類方の施設との複合化の検討

施設名：交通公園、金立山いこいの広場バンガロー(4人用・5棟, 8人用・5棟)